

# マレーシア国FELDA幼稚園教諭 隊員活動総合報告書

平成3年11月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

青派一
J R
91 - 03

RY



JICA LIBRARY



1095698(5)

23266



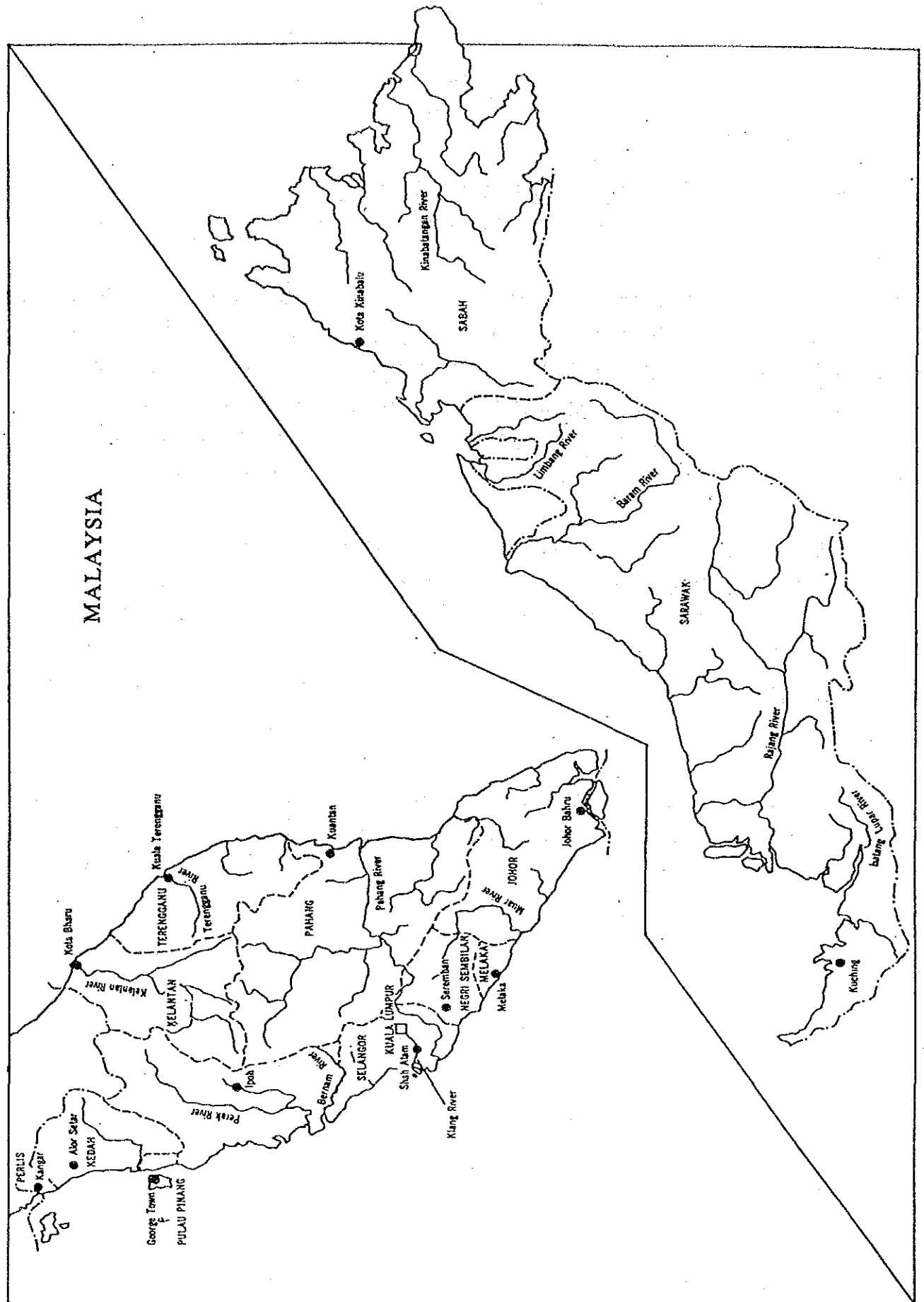
# マレーシア国FELDA幼稚園教諭 隊員活動総合報告書

平成3年11月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

国際協力事業団

23266







## 序

FELDA（連邦土地開発公団）における幼稚園教諭隊員の派遣は、1980年開始されこれまで延べ41名の隊員が派遣された。

隊員はFELDA入植地における幼稚園教諭の指導技術向上を目指し、この11年間マレーシアの風俗習慣にあった指導技術の開発および教育の育成に努めてきた。その結果、相当の成果を見るに至ると共に、1984年教育省によって新カリキュラムが制定され、今般FELDAにおける幼稚園教育がKEMAS（国家地方開発省社会開発部）の所管になるにあたり、協力隊活動も一旦終了することとし、過去の協力活動の記録をまとめることにした。

この報告書は、過去の幼稚園教諭隊員等関係者の協力を得ながら、金城睦子シニア隊員及び伊東里実・坪川紅美両隊員がまとめた総合報告書であり、41名の幼稚園教諭隊員によるマレーシアにおける活動実績である。

本報告書が将来マレーシアにおける幼児教育の指針となり、広く関係者に活用されることを願ってやまない。

最後に本分野での協力を活躍した隊員各位のご苦勞と成果を高く評価すると共に、隊員の派遣にご協力いただいた日・マ両国関係各位に対し深く感謝の意を表す次第である。

平成3年11月

JICAマレーシア事務所長  
小泉純作

## FELDA長官の挨拶

1975年より開始された青年海外協力隊（JOCV）の協力活動を通して、FELDAと国際協力事業団（JICA）は長い間堅い協力関係で結ばれてきた。今まで総勢97名の協力隊員が、野菜栽培・洋裁・幼稚園・・・といった多方面の分野にわたり、FELDAの入植地で活動を展開してきた。

幼稚園教諭隊員による協力活動は、1980年に始まり、合計41名の幼稚園教諭隊員が、マレーシア全土の入植地において活動し、現在も又、その活動は継続中である。


この活動が始まって間もない頃より、彼らは、多大な指導・教授を行ってきた。

彼らは、幼稚園教諭の向上を手助けする事に成功しただけでなく、同時に各入植地にある幼稚園委員会の協力を得て、幼稚園の質向上を目指し、共に努力を重ねてきたのである。

1991年、11月に3名の幼稚園教諭隊員が活動を終了するが、彼らはFELDAにおける幼稚園教諭隊員の最後のグループとなる。

これは、国際協力事業団（JICA）が、FELDAの幼稚園はすでに満足のいく水準に達しており、これからは協力活動を必要としないと判断し、この日を境に幼稚園教諭隊員の活動を終結することに決定したからである。とはいえ、他分野における協力活動は今後も継続するであろう。

初代隊員以来、多くの幼稚園教諭隊員による真しな協力・援助に対し、FELDAを代表しここに感謝の意を表したい。

  
(FADZIL YUNUS)  
Pengarah Besar,  
Felda.

－ 協 力 －

国際協力事業団 マレーシア事務所

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

FELDA (連邦土地開発公団) 本部

技術専門委員 (前田美知子)

歴代幼稚園教諭隊員

－ 編 集 －

金城睦子 (シニア)

村上浩美 (63年1次隊)

鈴木正代 (63年1次隊)

田中知勢子 (63年1次隊)

坪川紅美 (63年2次隊)

伊東里実 (H1年2次隊)



# 目 次

I	FELDAとJOCVの関係	
	・連邦土地開発公団（FELDA）に関する基本知識	3
	・入植地分布図	6
	・FELDAの組織図	7
	・隊員協力活動の概要と経緯	8
	・FELDA配属職種別歴代隊員名簿	9
	・FELDA配属職種別歴代隊員赴任状況年表	12
II	幼稚園教諭協力活動の展開	
	・歴代隊員の配属先と活動期間	15
	・歴代幼稚園隊員任期一覧表	16
	・各州別隊員配属先	17
	・隊員配置図	18
	・幼稚園組織図	20
	・活動経過	21
	・協力隊活動の詳細	24
	・SABAH州FELDAにおけるJOCV幼稚園隊員の活動	35
	・会議録	41
	・勉強会（BENGKEL）報告書	62
III	幼児教育啓蒙活動	
	・セミナー“幼児教育の日”に関する報告書	75
	・幼児教育／幼稚園への興味・関心の促進	102
IV	活動評価	
	・協力隊技術専門委員の評価	111
	・FELDA側よりの評価	118
	・隊員の自己評価	121
V	マレーシア国の幼児教育に対する提言	125
VI	歴代隊員の活動	
	・歴代隊員の感想（思い出）	129
	・写真集	135



## FELDAとJOCVの関係





## 連邦土地開発公団(FELDA)に関する基本知識

### 1. 背景

マレーシアは国内に都市、港、そして急成長型産業を多く抱えた国であり、経済の安定した大変将来性のある国でもある。

しかしマレーシアが持つこの素晴らしい機会を有効に利用していない国民もまだ多い。このような人々は自分が生まれた土地に縛り付けられ何の変化も成長もない生活を送っている。従って、未だに技術の向上もなく生活水準も従来のもままである。

こうした問題を解決する方法として、マレーシア政府は連邦土地開発公団 (FELDA) という機関を設立した。この機関は国土開発に関心を持ち、且つ土地を保有しない人々をFELDAの計画下に組織化し入植定着させることをその設立目的としている。

入植者は住宅を与えられ、より高額の安定した所得を確保し、次世代のためのより良い未来を目指している。

この新しい生活様式は土地を提供し、所得を増やすことだけではなく、生活に必要な不可欠な施設や設備を完備した、新しい環境形成をもその目的としている。

このFELDA計画は、理想を持ち生活の変化を恐れない人々に適した機会であると言えるであろう。

FELDAは1956年発布の国土開発法案に基づいて1958年7月1日に設立された。

FELDAの管轄業務は当該大臣にあり、諮問委員会が設立され大臣からの質問に答える義務を負っている。この委員会は入植地として認可された土地を開発し、入植者を定着させ、入植者の社会的経済基盤向上のためにさまざまな活動を企画する任務を負っている。

### 2. FELDA の目的

- a. 入植と農園用の土地を開発する。
- b. 土地を所有しない国民を定着させ、生活水準の向上をはかる。
- c. 総合的な開発をし、公共設備や公共サービスを提供することにより入植者の経済や生活の向上をはかる。
- d. 入植者及びその家族を対象に社会的、精神的な活動を起し、規律、向上、責任ある生活態度を学ばせる。
- e. 工場、販売機関、交通及びその他の様々な活動を提供し、入植者に最大限の機会を与える。

### 3. FELDAの運営

FELDAは、議長を始めその他12人の委員から構成される諮問委員会がその運営を行っているが、諮問委員は全員大臣によって任命される。

FELDAの設立目的を達成する為に、FELDAの活動及び運営は、土地開発及び入植、法人、合弁企業の3部門に分かれている。  
各部門の役割を以下に記す。

#### ① 土地開発と入植

この部門は長官によって統率されており、その下には2人の副長官がいる。

1人は開発を担当し、もう1人は入植事業を担当している。

開発は開発部が、入植は入植業務部がそれぞれ行っている。

##### a) 開発

開発部はFELDAの農業政策と、入植者の発展に関することをすべての面に渡って実施する役割を負っている。

開発は9つの分野に分かれており、各分野がそれぞれの開発部長によって統率されている。各開発部長はその下にいる3人の開発次長を監督している。

そして各開発次長は総面積約30,350ヘクタールに渡る約20カ所の入植地を管轄している。

##### b) 入植業務

この部は開発部の事業を支援する役割を負っており、財務、技術、計画、予算、業務運営、調査、土地・入植者の入植、業務・研修から構成されている。

#### ② 法人

法人は1956年発布の国土開発法案、第43項に基づいて成立している。

この法人は以下の分野における公共サービスの支援と供給をその目的としている。

つまり処理、販売、供給、交通、農業業務、警備業務、建設、データ処理である。

現在、13の法人が設立されている。これらの法人は営利事業として運営されており、独立採算制をとっている。

グループ常務取締役（法人）が1人おり、これらの法人のうち10社の運営責任を負っている。そして各法人はそれぞれの部長が運営を行っている。

13の法人のうち販売、処理、ゴムの3社はグループ常務取締役（商業）の管轄におかれている。

### ③ 合弁企業

会社法に基づき7社の合弁企業が設立された。

合弁企業はそれぞれ常務取締役あるいは部長によって統率されている。

この常務取締役、及び部長はグループ常務取締役（商業）が監督している。

第5次マレーシア計画（1986-1990年）の期間、政府の目標は毎年総面積35,100ヘクタールの土地を開発し6千人を入植させることであった。

FELDAはその目的を実施することに成功した。

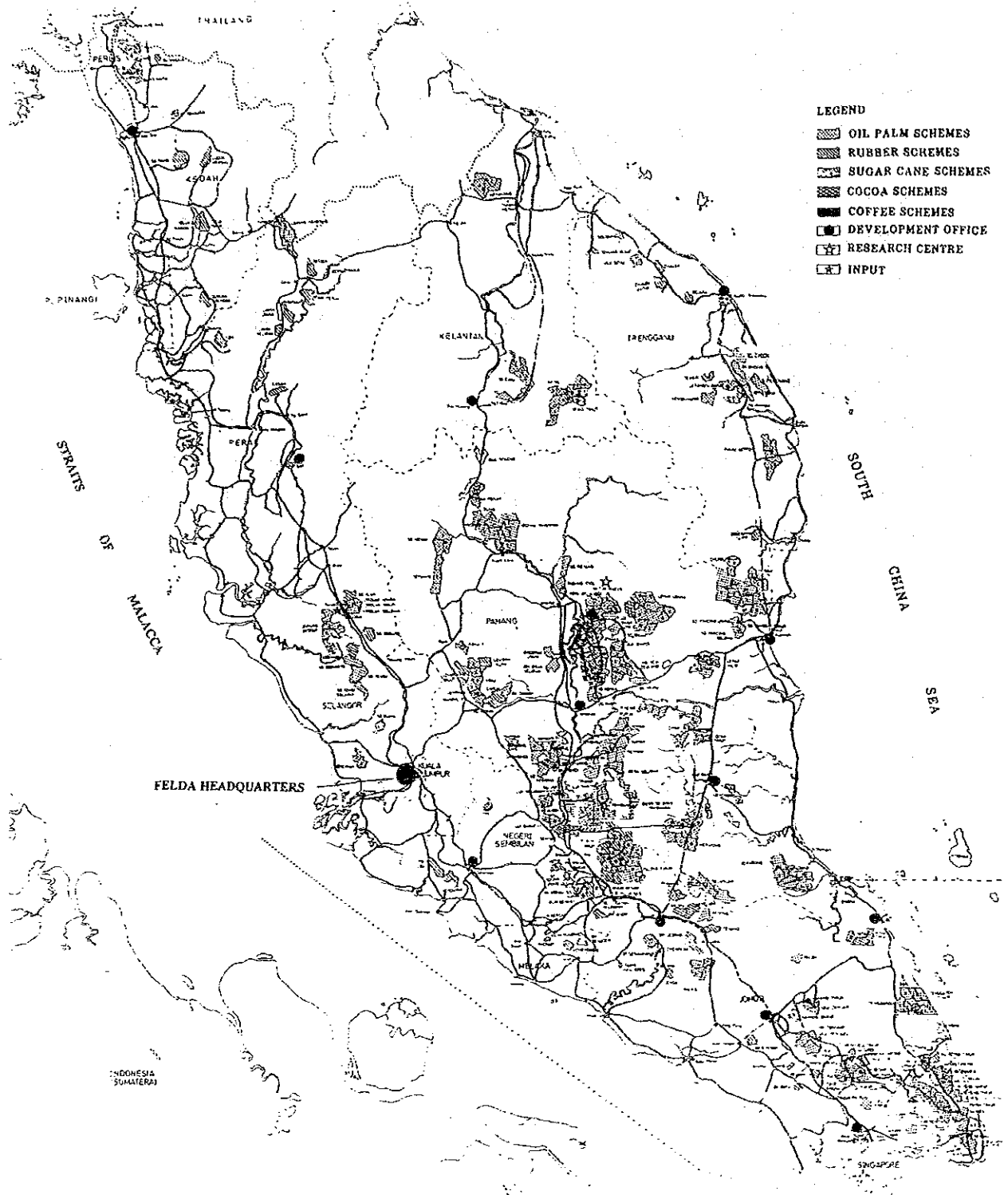
政府は第5次マレーシア計画の期間内に、175,000ヘクタールの土地開発を目標としていたが、FELDAは総面積175,508ヘクタールの土地開発をすることに成功し、1989年12月までに26,095人が入植し、第5次マレーシア計画の期間内に約3万人が323カ所の入植地に定着している。

その開発総面積869,540ヘクタールにのぼる。

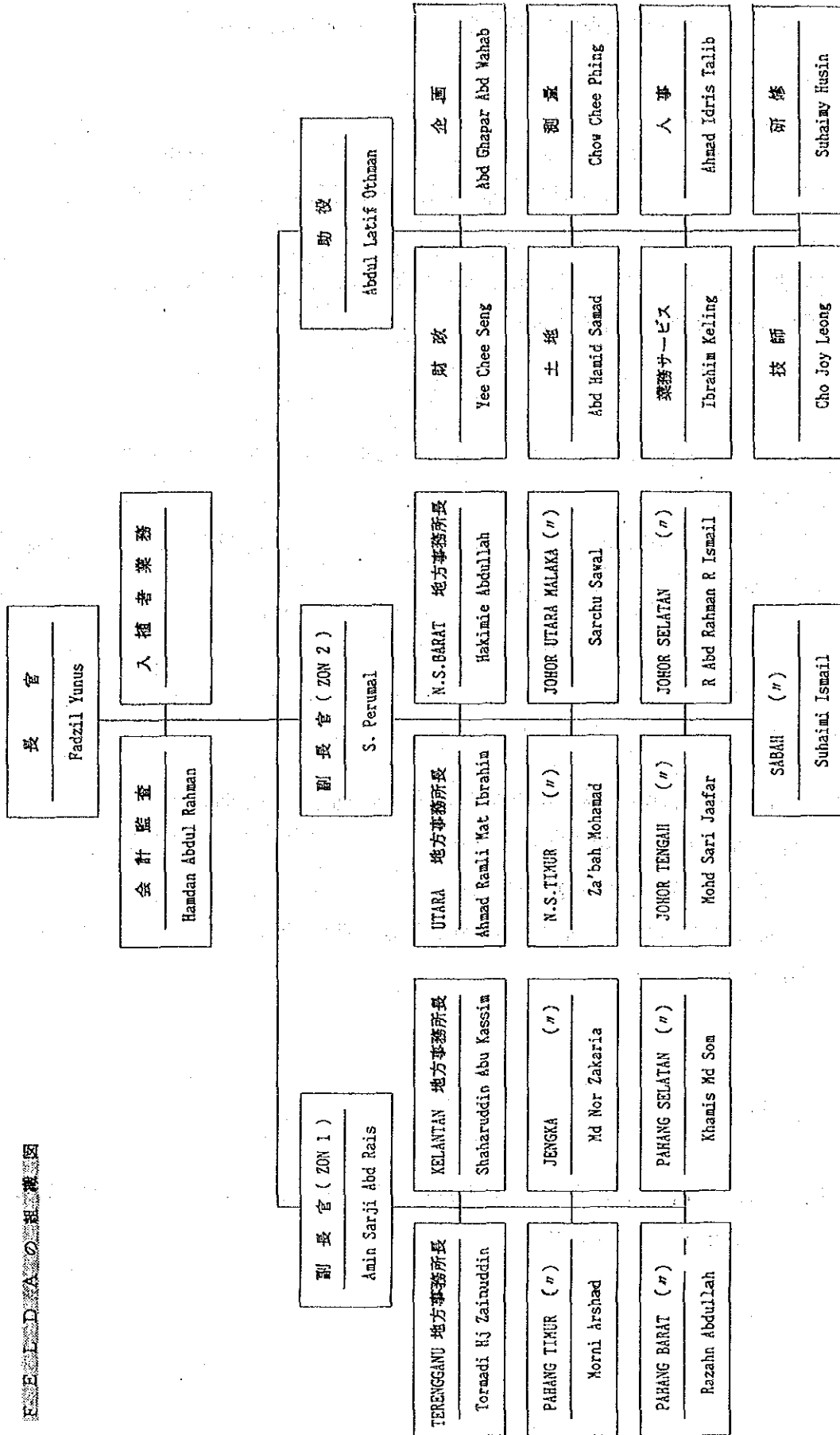
この内606,294ヘクタールはパーム油農園であり、189,395ヘクタールはゴム園、15,515ヘクタールはカカオ農園、5,118ヘクタールは砂糖きび農園、1,378ヘクタールはパーム油とカカオの混合農園、そして806ヘクタールはコーヒー豆農園となっている。

1989年12月までに119,180人が323カ所の入植地に定着した。

入植地分布图



EEEDAの組織図



## 隊員協力活動の概要と経緯

前頁で述べたFELDAの背景、目的により、社会開発部門への協力要請を受ける。

“知識や技術の専門性の習得、入植者や職員へそれぞれの分野の訓練強化と熟練する機会を与える”を目的に、1975年にJ.O.C.V.の派遣が開始された。

以来、今日に至るまで、16年間にわたり97名の隊員が入植地や訓練所で協力活動を行ってきた。

派遣職種、人数、名前等は別添を参照されたし。

1975年に、野菜隊員3名の活動を皮切りとし、その後FELDAの入植地数増、事業拡大に伴い派遣員数、派遣職種数も激増した。

幼稚園教諭隊員は1980年4月の3名を初めとし、現在まで42名(27を含む)のFELDA最大の隊員派遣職種となっている。

### 要請背景

J.O.C.V.が派遣される前、FELDAの幼稚園へはドイツの協力隊員が約10年間協力していたが、FELDA側と、ドイツ側の幼稚園に対する考え方の相違(①FELDA側 → 就学前教育、②ドイツ側 → 幼児の情操教育)により、FELDA側の思いどおりの成果が得られていなかった。

その当時のFELDA長官が訪日の際、日本に於ける幼児教育を見聞したことから、日本式幼稚園教育を導入すべく派遣要請が出された。

### J.O.C.V.に期待されたもの

各入植地における現地幼稚園教諭に対して、幼児教育の方法や教材の改善、開発について助言し、正しい幼児教育が出来るよう指導していくこと。

## F E L D A 配 屬 職 種 別 歷 代 隊 員 名 簿

### 野 菜

1	1975年	50-1	古賀正孝	Wilayah Jengka	( Pahang )
2			水野 嵩	Bukit Mendi	( Pahang )
3			西村喜繼	Pasir Besar	( N.Sembilan )
4	1976年	50-2	小林 保	Air Tawar 4	( Johor )
5		51-1	大野田都子	Kota Gelanggi 1 , Jengka 17	( Pahang )
6			坪 迪子	Sg. Pancing Timur , Neram 1	( Pahang )
7	1977年	52-1	村上 讓	Palong 3 , Kerteh 1	( N.Sembilan , T'gganu )
8	1978年	53-1	佐々木せい子	Pasoh 4	( N.Sembilan )
9			島津朋子	Semencu	( Johor )
10			井上昌夫	Jengka 18	( Pahang )
11			山口正一	Jengka 12	( Pahang )
12	1980年	54-4	羽賀ますみ	Keratong 4 , Cini 4	( Pahang )
13		55-1	加藤愛樹	Jelai 2	( N.Sembilan )
14			佐藤恒雄	Palong 5	( N.Sembilan )
15			千野雅生	Jengka 23	( Palong )
16	1981年	55-4	田上博昭	Sebertak	( Pahang )
17	1982年	56-3	岩橋末浩	Sening , Papan Timur	( Johor )
18		56-4	矢端幹男	Lepar Hilir	( Pahang )
19	1983年	58-1	佐久間弘行	Jelai 2 , INPUT	( N.Sembilan , Perak )
20	1984年	58-4	中園道実	Pemanis 1 , Kerteh 3	( Johor , T'gganu )
21	1985年	59-3	古賀直孝	Bukit Sagu 1 , INPUT	( Pahang , Perak )
22			八木 宏	Keratong , Gunung.Bungsu	( Pahang , Kedah )
23	1985年	60-2	梶本義文	Bukit Sagu 1	( Pahang )
24			中沢敏之	Keratong 5 , Umas-Umas	( Pahang , Sabah )
25	1986年	61-1	木村裕介	Ciku 1 , INPUT	( Kelantan , Perak )
26	1988年	62-3	田中莊滋	Palong 11 , INPUT	( N.Sembilan , Perak )
27	1989年	63-2	古川 正	Cini Timur 2	( Pahang )
28		63-3	両角柳也	Sungai Ciku 6	( Kelantan )
29		63-3	壬生雅穂	Umas-Umas	( Sabah )
30		H1-1	辻 雅彦	Sahabat 14	( Sabah )

### 手 芸 / 家 政

1	1978年	53-1	柳橋 緑	Jengka 15	( Pahang )
2			兵頭佳江	Air Tawar 2	( Johor )
3	1980年	54-3	小林ますみ	Sungai Koyan 2	( Pahang )
4		55-1	渡辺美砂	Kahang Barat	( Johor )
5	1983年	57-4	中村優子	Kota Gelanggi 4	( Pahang )
6		58-2	春山裕子	Bukit Mendi	( Pahang )
7	1984年	58-4	松田ユリ子	Bukit Goh	( Pahang )
8	1986年	60-3	田原典子	Gunung Besout 1	( Perak )
9			鶴崎恒子	Adela	( Johor )
10			片岡さつき	Keratong 2	( Pahang )
11	1988年	63-1	小保内治子	Adela	( Johor )
12			古川比呂実	Jengka 11	( Pahang )
13	1989年	H1-1	岩館光重	Keratong , PNF K.L.	( Pahang , K.L. )

洋 裁

1	1976年	50-2	沼田登紀江	Bukit Besar	( Johor )
2		51-1	松村春枝	Pusat Latihan Trolak	( Perak )
3	1980年	シニア	松村春枝	Pusat Latihan Trolak	( Perak )

幼 稚 園 教 諭

1	1980年	54-4	伊藤朱美	Chemplak , Sg. Koyan	( Johor , Pahang )
2			木村輝美	Kahang Timur , Jelai 1	( Johor , N.Sembilan )
3			佐藤秀子	Keratong 4	( Pahang )
4		55-2	文野早智子	Jengka 16	( Pahang )
5			志村のぶ子	Chalok Barat	( Terengganu )
6			谷野美代子	Sebertak , Palong 7	( Pahang , N.Sembilan )
7	1982年	56-3	宮城洋子	Cini 1 , Pusat Latihan	( Pahang , Perak )
8			徳永裕子	Sening	( Johor )
9			田村陽子	Gunung Besout 1	( Perak )
10		56-4	文屋厚子	Kerteh	( Terengganu )
11			西野政代	Palong 4	( N.Sembilan )
12		57-2	小畑けい子	Bukit Waha	( Johor )
13	1983年	57-3	安味恭子	Lubok Merbau	( Kedah )
14			高坂真紀子	Keratong , Pusat Latihan	( Pahang , Perak )
15		58-1	石井範子	Kumai	( Pahang )
16			中田洋子	Serting 2	( N.Sembilan )
17			松田良子	Jengka 4	( Pahang )
18		58-2	土井クルミ	Air Tawar 2 , Pusat Latihan	( Johor , Perak )
19			友成恵美	Kerteh 2	( Terengganu )
20			海老子ひとみ	Linggiu	( Johor )
21			片山啓子	Lakum	( Pahang )
22	1984年	58-4	秋吉初子	Cini 4	( Pahang )
23		59-1	市川れい子	Padang Piol	( Pahang )
24			金城睦子	Palong 8 , Pusat Latihan	( N.Sembilan , Perak )
				Mempaga 2	( Pahang )
25		59-2	加山洋子	Keratong 8	( Pahang )
26			荒木仁美	Tersang 1	( Pahang )
27			蜂谷直美	Sungai Mas	( Johor )
28			高澤栄子	Tebu Chupping	( Perlis )
29	1985年	59-3	藤原純子	Jelai 4	( N.Sembilan )
30			高木彰子	Lui Timur	( N.Sembilan )
31			斉藤秀子	Pemanis 1	( Johor )
32			岡久明美	Trolak Selatan , Umas 2	( Perak , Sabah )
33			飯屋崎ひとみ	Tenggaroh 2	( Johor )
34		61-1	高田如恵	Jengka 13 , Pusat Latihan	( Pahang , Perak )
35			服部明美	Lepar Hilir 1	( Pahang )
36	1987年	62-2	宮本純子	Pusat Latihan Trolak	( Perak )
37	1988年	63-1	鈴木正代	Lepar Utara 5	( Pahang )
38			田中知勢子	Umas 3 , Sahabat 9	( Sabah )
39			村上浩美	Tenggaroh 5	( Johor )
40	1989年	63-2	坪川紅美	Palong 10 , Palong 14	( N.Sembilan )
41		H1-2	伊東里実	Triang 3	( Pahang )
42		シニア	金城睦子	INPUT , Felda HQ	( Perak , K.L. )



保 健 婦

- |   |       |      |       |        |           |
|---|-------|------|-------|--------|-----------|
| 1 | 1986年 | 61-1 | 船橋恵津子 | Umas 1 | ( Sabah ) |
| 2 | 1988年 | 63-1 | 立花久美子 | Umas 1 | ( Sabah ) |

木 工

- |   |       |      |      |                           |                    |
|---|-------|------|------|---------------------------|--------------------|
| 1 | 1980年 | 54-4 | 竹内良行 | Pusat Latihan Trolak      | ( Perak )          |
| 2 | 1983年 | 57-4 | 菊池光典 | Jengka 15 , Pusat Latihan | ( Pahang , Perak ) |

自 動 車 整 備

- |   |       |      |      |                      |           |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|
| 1 | 1980年 | 55-2 | 石亀一昭 | Pusat Latihan Trolak | ( Perak ) |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|

溶 接

- |   |       |      |      |                      |           |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|
| 1 | 1986年 | 61-2 | 西 重樹 | Pusat Latihan Trolak | ( Perak ) |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|

建 築

- |   |       |      |      |                      |           |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|
| 1 | 1976年 | 51-2 | 円田健夫 | Pusat Latihan Trolak | ( Perak ) |
|---|-------|------|------|----------------------|-----------|

き の こ

- |   |       |      |      |             |           |
|---|-------|------|------|-------------|-----------|
| 1 | 1989年 | H1-1 | 金田克己 | Tenggaroh 2 | ( Johor ) |
|---|-------|------|------|-------------|-----------|

視 聴 覚 教 育

- |   |       |      |      |       |           |
|---|-------|------|------|-------|-----------|
| 1 | 1990年 | H1-3 | 佐藤 薫 | INPUT | ( INPUT ) |
|---|-------|------|------|-------|-----------|

F E L D A 配屬職種別歴代隊員赴任状況年表

	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	H1年	H2年	H3年	計
	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	
野 菜	3	3	1	4		4	1	2	1	1	4	1		1	4			30
家政/手套				2		2			2	1		3		2	1			13
洋 裁		2				1												3
幼稚園教諭						6		6	9	7	7		1	3	3			42
保 健 婦												1		1				2
木 工						1			1									2
自動車整備						1												1
浴 接												1						1
建 築		1																1
きのこ															1			1
視聴覚教育																1		1
計	3	6	1	6	0	15	1	8	13	9	11	6	1	7	9	1		97

1991年11月現在

## 幼稚園教諭協力活動の展開



## 歴代隊員の配属先と活動期間

	名 前	隊次	配 属 先	活 動 期 間
1	伊藤 朱美	54/4	Chemplak, Sg. Koyan.	80/4/10 ~ 82/11/30
2	木村 輝美	54/4	Kahang Timur, Jelai 1.	80/4/10 ~ 82/9/30
3	佐藤 秀子	54/4	Keratong 4.	80/4/10 ~ 82/11/30
4	文屋 早智子	55/2	Jengka 16.	80/10/2 ~ 82/11/30
5	志村 のぶ子	55/2	Chalok Barat.	80/10/2 ~ 82/4/28
6	谷野 美代子	55/2	Sebertak, Palong 7.	80/10/2 ~ 82/11/30
7	宮城 洋子	56/3	Cini 1, Pusat Latihan Trolak.	82/1/27 ~ 84/1/26
8	徳永 裕子	56/3	Sening.	82/1/27 ~ 84/1/26
9	田村 陽子	56/3	Gunung Besout 1.	82/1/27 ~ 84/1/26
10	文屋 厚子	56/4	Kerteh.	82/4/5 ~ 84/8/4
11	西野 政代	56/4	Palong 4.	82/4/5 ~ 84/5/4
12	小畑 けい子	57/2	Bukit Waha.	82/10/4 ~ 84/12/3
13	安味 恭子	57/3	Lubok Merbau.	83/1/20 ~ 85/2/19
14	高坂 真紀子	57/3	Keratong, Pusat Latihan Trolak.	83/1/20 ~ 85/1/19
15	石井 範子	58/1	Kumai.	83/7/25 ~ 85/12/24
16	中田 洋子	58/1	Serting 2.	83/7/25 ~ 85/12/24
17	松田 良子	58/1	Jengka 4.	83/7/25 ~ 85/7/24
18	土井 クルミ	58/2	Air Tawar 2, Pusat Latihan Trolak.	83/10/8 ~ 86/1/7
19	友成 恵美	58/2	Kerteh 2.	83/10/8 ~ 85/11/7
20	海老子ひとみ	58/2	Linggiu.	83/10/8 ~ 85/10/7
21	片山 啓子	58/2	Lakum.	83/10/8 ~ 85/11/7
22	秋吉 初子	58/4	Cini 4.	84/4/2 ~ 86/4/30
23	市川 れい子	59/1	Padang Piol.	84/7/26 ~ 86/7/25
24	金城 睦子	59/1	Palong 8, Pusat Latihan Trolak, Mempaga 2.	84/7/26 ~ 87/12/31
25	加山 洋子	59/2	Keratong 8.	84/12/3 ~ 86/2/18
26	荒木 仁美	59/2	Tersang 1.	84/12/3 ~ 86/12/2
27	蜂谷 直美	59/2	Sg, Mas.	84/12/3 ~ 86/12/2
28	高澤 栄子	59/2	Tebu Chupping.	84/12/3 ~ 86/12/2
29	藤原 純子	59/3	Jelai 4.	85/3/27 ~ 87/3/26
30	高木 彰子	59/3	Lui Timur.	85/3/27 ~ 87/3/26
31	斉藤 秀子	59/3	Pemanis 1.	85/3/27 ~ 87/3/26
32	岡久 明美	59/3	Trolak Selatan, Umas 2.	85/3/27 ~ 87/5/26
33	飯屋崎ひとみ	59/3	Tenggaroh 2.	85/3/27 ~ 87/3/26
34	高田 如恵	60/1	Jengka 13, Pusat Latihan Trolak.	85/7/23 ~ 87/7/22
35	服部 明美	60/1	Lepar Hilir 1.	85/7/23 ~ 87/7/22
36	宮本 純子	62/2	Pusat Latihan Trolak.	87/12/16 ~ 89/12/15
37	鈴木 正代	63/1	Lepar Utara 5.	88/7/11 ~ 90/10/31
38	田中 知勢子	63/1	Umas 3, Sahabat 9.	88/7/11 ~ 91/7/10
39	村上 浩美	63/1	Tenggaroh 5.	88/7/11 ~ 90/7/10
40	坪川 紅美	63/2	Palong 10, Palong 14.	89/1/4 ~ 92/1/3
41	伊東 里実	H1/2	Triang 3.	89/11/29 ~ 91/11/28
42	金城 睦子	77	Pusat Latihan Trolak, Taska Ibu Pejabat Felda.	89/10/23 ~ 92/1/3

現代幼稚園職員任期一覽表

No	氏名	80		81		82		83		84		85		86		87		88		89		90		91		
		4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	4	7	10	
1	伊原 邦美																									
2	木村 須美																									
3	佐藤 秀子																									
4	又見 早智子																									
5	吉村 のぶ子																									
6	谷野 美代子																									
7	宮坂 洋子																									
8	野水 裕子																									
9	田村 美子																									
10	文島 真子																									
11	沼野 政代																									
12	小池 由子																									
13	安味 寿子																									
14	池谷 真紀子																									
15	石井 真子																									
16	中田 洋子																									
17	松田 貞子																									
18	土井 久美																									
19	友成 夏美																									
20	沼野 ひとる																									
21	片山 節子																									
22	秋西 初子																									
23	市川 秋子																									
24	金森 美子																									
25	船山 洋子																									
26	清水 仁美																									
27	野谷 夏美																									
28	高橋 栄子																									
29	岡原 美子																									
30	浦水 寿子																									
31	坂野 美子																									
32	田久 明美																									
33	飯沼 ひとる																									
34	栗田 知恵																									
35	星野 明美																									
36	宮本 美子																									
37	村上 裕美																									
38	鈴木 正代																									
39	田中 明美子																									
40	野川 美美																									
41	伊東 里美																									
42	金森 美子(197)																									

各州別隊員配属先

TRENGGANU

志村 のぶこ	Chalok Barat.
文屋 厚子	Kerteh 1.
友成 恵美	Kerteh 2.

PAHANG

木村 輝美	Kahang Timur.
佐藤 秀子	Keratong 4.
伊藤 朱美	Sg.Koyan 2.
文屋 早智子	Jengka 16.
谷野 美代子	Sebertak.
宮城 洋子	Cini 1.
高坂 真紀子	Keratong 5.
石井 範子	Kumai.
松田 良子	Jengka 4.
片山 啓子	Lakum.
秋吉 初子	Cini 4.
市川 れい子	Padang Piol.
金城 睦子	Mempaga 2.
荒木 仁美	Tersang 1.
加山 洋子	Keratong 8.
高田 如恵	Jengka 13.
服部 明美	Lepar Hilir 1.
鈴木 正代	Lepar Utara 5.
伊東 里実	Triang 3.

NEGERI SEMBILAN

木村 輝美	Jelai 1.
谷野 美代子	Palong 7.
西野 政代	Palong 4.
中田 洋子	Serting 2.
金城 睦子	Palong 8.
高木 彰子	Lui Timur.
藤原 純子	Jelai 4.
坪川 紅美	Palong 10, 14.

PERLIS

高澤 栄子	Tebu Chuping.
-------	---------------

KEDAH

安味 恭子	Lubok Merbau.
-------	---------------

PERAK

岡久 明美	Trolak Selatan.
田村 陽子	Gunung Besout 1.
宮城 洋子	
高坂 真紀子	
土井 クルミ	Pusat Latih Trolak.
金城 睦子	
高田 如恵	
宮本 純子	

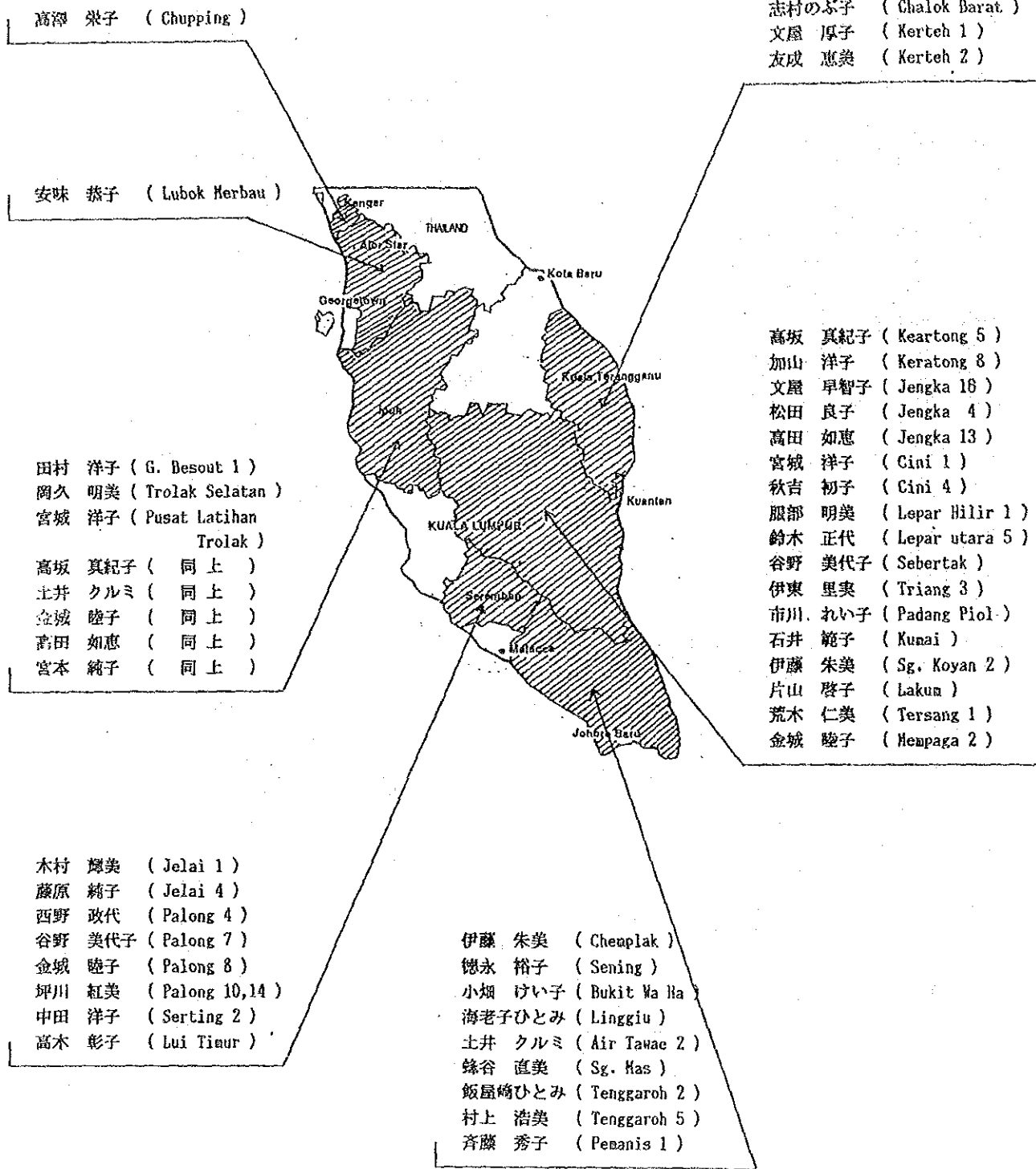
JOHOR

伊藤 朱美	Chemplak.
徳永 裕子	Sening.
小畑 けい子	Bukit Waha.
海老子ひとみ	Linggiu.
土井 クルミ	Air Tawar 2.
蜂谷 直美	Sg. Mas.
飯屋崎ひとみ	Tenggaroh 2.
斉藤 秀子	Pemanis 1.
村上 浩美	Tenggaroh 5.

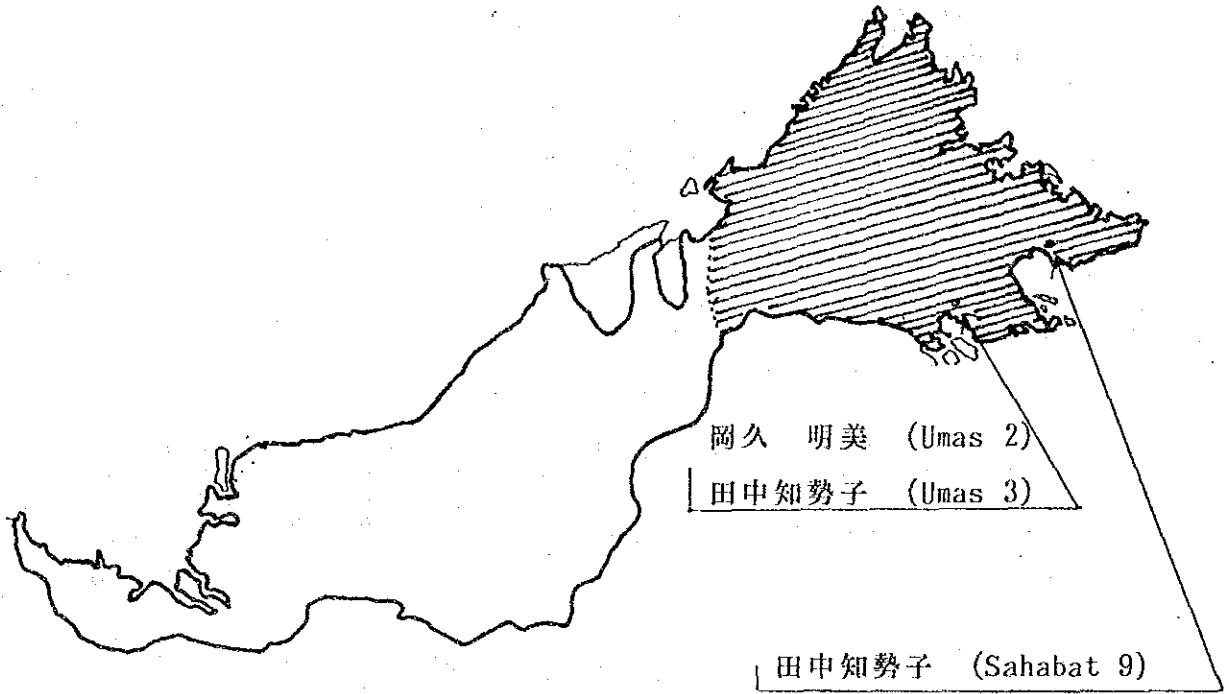
SABAH

岡久 明美	Umas 2.
田中 知勢子	Umas 3, Sahabat 9.

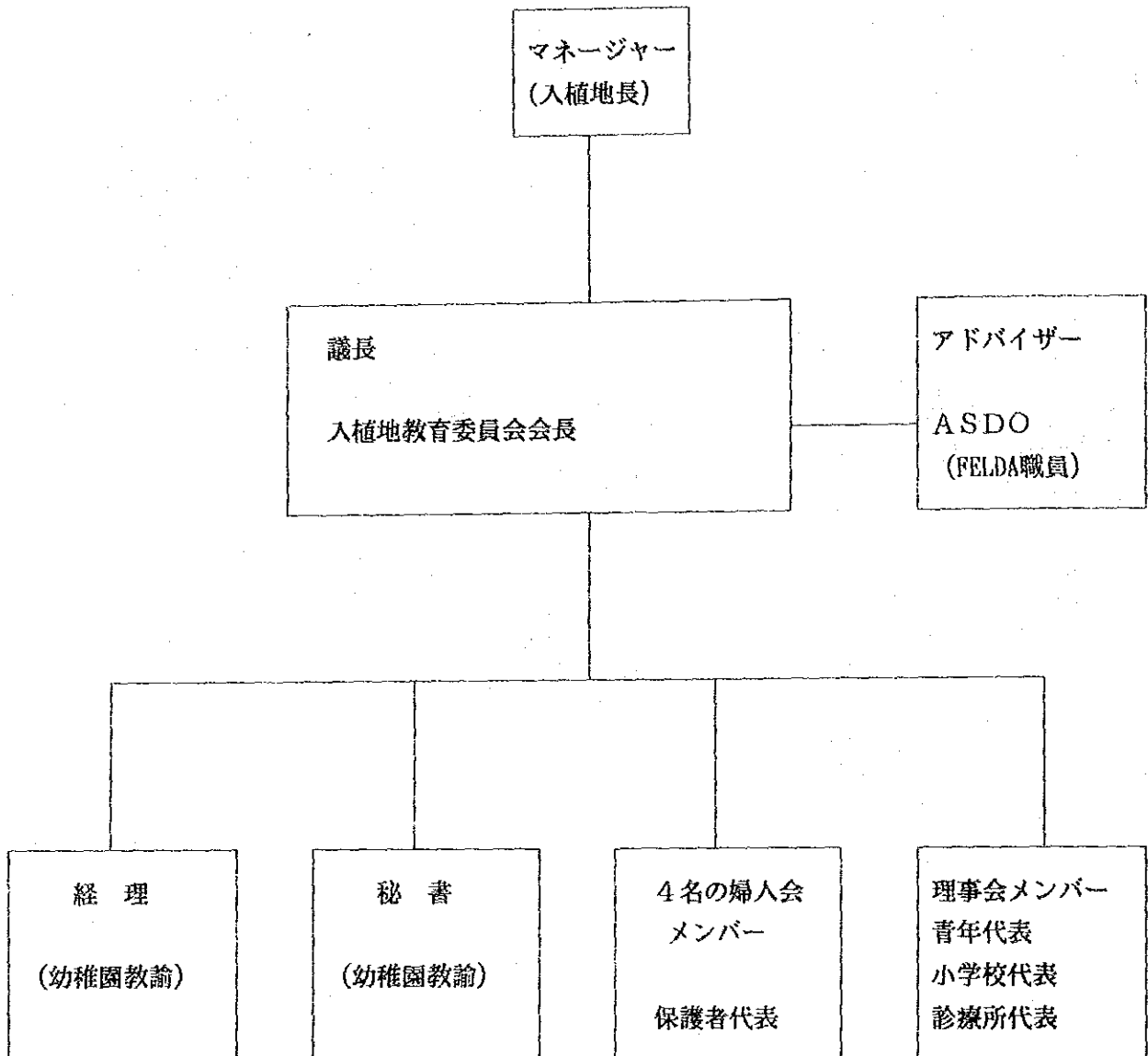
# 隊員配置圖







# 幼稚園組織図



## 活動経過

年 代	FELDAの参み/JOCVの活動	マレーシアの動き
1956	・ FELDA設立	
1957		8月31日 マラヤ連邦独立 ラーマン初代首相就任
1963		9月16日 マレーシア連邦となる。
1965		8月1日 シンガポール独立 小学校、中学校9年間の学制となる。
1967	初のTadika, Midoi (ミドイ) ジョホール州に開園。これは、入植者達が動きを起こし、その後本部が指導する形となった。教諭の給料M\$20-40は自治会が支払う。	
1970	・ FELDAの社会開発部門設立、幼稚園の管理を始める。	マレー人優先政策制定
1971	・ 第一回幼稚園教諭研修 (農業大学にて45名参加) ・ FELDA本部より、最低限必要な教材提供の開始	第二代ラザク首相就任
1972	・ 第二回幼稚園教諭研修 (Pandan村 青年会議所にて) ・ 保護者会設立 各入植地での幼稚園への援助 収入のある入植地 一学期に M\$2.50 収入のない入植地 M\$1.00	
1973	・ 初版幼稚園指導要領発行 ・ ドイツボランティアの協力始まる。 ・ 8月 第三回幼稚園教諭研修 (65名参加) ・ 12月 第四回幼稚園教諭研修	
1974	・ FELDA本部からの幼稚園教諭への手当支給開始 教師1 (先任) M\$80.00/月額 教師2 M\$70.00/月額 ・ 5月 園舎建築資金援助開始 (M\$5,000) ・ 8月 第五回幼稚園教諭研修 ・ 8月 幼稚園教諭に対する「教育目標達成評価」開始 ・ 10月 ASDOに対する研修 ・ 11月 モデル幼稚園に対する援助 (M\$450) モデル幼稚園は各地方事務所2カ所に限定 ・ 12月 モデル幼稚園教諭に対する研修 (28名の教師、3名のドイツボランティア)	

1975	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月 基礎研修を受けたモデル幼稚園教師に対する研修 (第2段階)</li> <li>・幼稚園教諭の昇給 (各教師M\$200/月額になる)</li> <li>・モデル幼稚園は長期休暇/週末の教諭研修の為のセンターとして役目を果たすようになる。</li> <li>・すべてのモデル幼稚園で週案を立てるようになる。</li> <li>・11月 基礎研修を受けたモデル幼稚園教師にたいする研修 (第2段階)</li> </ul>	
1976	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月 ASDOによる幼稚園の評価開始</li> <li>・移動図書館運営開始</li> <li>各幼稚園より一学期にM\$10-15を徴収し、図書購入にあてる。</li> <li>・4月 新任教師の為の研修開始 (中央訓練所にて)</li> </ul>	<p>第三代フセインオン首相就任</p>
1977	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツボランティアにより幼児教育参考資料が作られる。</li> </ul>	
1978	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル幼稚園に対する援助 (M\$450)</li> </ul>	
1979	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二版幼稚園指導要領発行</li> </ul>	
1980	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低限必要な教材の提供を地方事務所付で行う。(最高M\$180)</li> <li>・JOCV幼稚園教諭隊員 (初代) 3名派遣される。 幼稚園の実状 <ul style="list-style-type: none"> <li>：就学前6才を対象とする一年保育</li> <li>：就学前準備の読み、書き、算数が中心</li> <li>：午前、午後の2部制の園も多い。</li> <li>：6, 5, 4才混合の多人数学級も存在していた。</li> </ul> </li> <li>・ドイツボランティア引き上げる。</li> </ul>	
1981	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初代3名のJOCVにより幼稚園教育参考資料集がつくられる。</li> </ul>	<p>第四代マハティール首相就任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東方政策</li> <li>・マレー人優先政策推進</li> </ul>
1982	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭の昇給 <ul style="list-style-type: none"> <li>中高卒資格 M\$325/月額 (16.25% ↑↑↑)</li> <li>中卒資格 M\$250/月額 (12.50% ↑↑↑)</li> </ul> </li> <li>・最低限必要な教材購入費値上げ (M\$180→700)</li> <li>・園舎建築資金援助費値上げ (M\$5,000→7,000)</li> <li>・11月1日-13日、中央訓練所に於てJOCVによる幼稚園教育参考資料の説明会開催</li> </ul>	
1983	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央訓練所にJOCVも講師として配属される。</li> </ul>	

1984	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FELDA幼稚園の漸増に伴ってJOCV要請も増え、最大21名が在マした時期。</li> <li>・ 隊員の分担により就学前教育カリキュラムを翻訳する</li> </ul>	<p>教育省より就学前教育カリキュラムが発行される。</p>
1985	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月 本部とJOCVの協力により、教育省のカリキュラムに基づくFELDA独自の新幼児教育参考資料集作成(作成委員12名 中 隊員4名) * 12月に完成予定だったが、いろいろな事情により未完成に終わる。</li> <li>・ FELDAの独力による幼稚園教育運営の方針により、隊員要請を一時中断。 その後アンケート調査等を行った結果、再要請がだされた。</li> </ul>	
1986	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サバ州の幼稚園に協力隊派遣される。</li> </ul>	<p>教育省より幼稚園教育要領改定版が発行される。</p>
1987	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央訓練所ノリタ講師日本派遣研修に参加 埼玉県に於て6カ月の研修を受ける。</li> <li>・ 前田美知子技術専門委員巡回指導の為来馬</li> </ul>	
1988	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強会に公開保育を取り入れる。</li> <li>・ 隊員の所属を地方事務所に切り替え、巡回指導を中心に活動する。</li> </ul>	<p>教育省より幼稚園教育要領改定版が発行される。</p>
1989	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協力活動終結に向けてシニア隊員派遣される。</li> </ul>	
1990	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前田美知子技術専門委員巡回指導とセミナー出席の為再来馬</li> <li>・ 10月27日 幼児教育セミナー開催</li> <li>・ 幼稚園のKEMASへの委託発表</li> </ul>	<p>FELDAの民営化計画発表 (5年後に民営化)</p>
1991	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KEMASへの委託開始 幼稚園数 314園、教師数 772名 園児数 26,022名、クラス数 728クラス (1990年12月現在)</li> <li>・ 10月 中央訓練所ムテインガ講師、1カ月の日本研修派遣</li> <li>・ 11月 : 隊員活動総合報告書完成 : 報告書の引渡し式 (FELDA長官、JICA事務所長、技術専門委員、JOCV OG、JOCV関係者が出席)</li> <li>・ 12月末 JOCV幼稚園教諭活動終結</li> </ul>	

## 協力隊活動の詳細

### 1. 活動内容

#### 1.1 第一期

##### 1) 幼稚園の現状

マレーシアの幼稚園は教育省よりのカリキュラムがなく、各団体 FELDA、RISDA、NATIONAL UNITY DEPARTMENT、HOUSING DEPARTMENT、私立幼稚園独自で教育がなされていた。協力活動開始当初は、マレーシア側の教育内容や考え方の違いで、“これは日本式だから”とほとんど受け入れられず、隊員は教材作り、代用教師、代用調理人等と配属先と JOCV の考えの違いに悩まされた。

配属先は、幼稚園を就学前教育の準備段階と考えており、活動は文字や数字の読み書きが中心で、子供達が遊ぶ時間は完全な休憩と考え、教師もその時間になると子供達をほったらかしにしてお茶の時間にあてていた。

基本的な生活習慣の手洗い、トイレの使い方、ゴミの捨てかた、後片付け、靴やぞうりの整理等の指導もなされていなかった。

本部から出された週の目標もどのように日案に組み入れていかかわからず、その日その日の計画を考えるのに精一杯で、週案、月案、年間計画等がまるでなされていなかった。

また講習を受けてきてもそれをうまく使いこなせない、教師達の上に立つ ASDO/SDA (社会開発関係職員) も何が幼稚園教育に重要か理解していない為“教材作り”ばかりを強調していた。

##### FELDAにおける幼児教育のねらい

- ・ 子供達に思考力の発達、心身の調和的な発達、豊かな情緒の発達、よい社会性の発達ができる機会を与える。
- ・ 就学前の子供の一つの準備段階として(就学前教育として)、子供達に自主性、自立性、意欲を養うような健全な心身を形成し、さまざまな活動を経験させる機会を与える。
- ・ 家族という集団を離れ、集団生活、共同作業、友達同士の協力を体験する。
- ・ 子供達の日常生活を通して、正しい衛生習慣を身につけるようにする。
- ・ 両親が幼児教育の重要性を理解し、学び、教育の役割を担うことを助長する。

##### 2) 活動内容

各入植地に於て以下の活動を行う。

- ① 教材、教具製作と使い方の指導。
- ② 子供の教育に実際に携わる教師の指導 (子供と一緒に遊ぶ)
- ③ 玩具作り。
- ④ 講習会—絵画製作を中心に行う。
- ⑤ 各コーナー遊びの整理と充実を計る。
- ⑥ 幼稚園の設備、備品の改良
- ⑦ 基本的な生活習慣の指導 (手洗い、ごみ捨て、靴並べ等)
- ⑧ カウンターパートへの指導

⑨ 資料作り（指導要領）

a) 背景

幼稚園教諭達は、本部から配布された一年分の週単元の目標だとか、それに基づく子供達の活動はどのようなものがあるか、又それをどうやって展開していくのか、教材はどんなものを使えばいいのか、ということを知らないまま保育している。

又一部を除いてほとんどの先生が講習を受けていない。

講習を受けた人でも一般的な保育概論であつたり、教材作りの知識であつて一個一個が関連性のない別なものであり、それをいかに子供達の保育の中に取り入れていくのか、時期によってどの程度のことを子供に要求できるか、領域別にどのような活動を取り入れられるか、又それを一年間どのように配分していくか等、保育のテクニックやプログラムの組み方まで発展していかない。

入植地の教師にわかるマニュアルにし、教材もできるだけ身近な所で手に入るようなものを使う。

今まであつたFELDAの方針をくつがえさないように、週単元をまとめ目標展開方法などを詳しく説いていこうという趣旨でこの資料作りにとりかかる。

当初は年間指導計画書だけを作る予定だったが、いろいろと追求していくうちに最終的には年間プログラム、領域別指導計画書、保育活動集と3種類にわたる資料集の作成に到った。

b) 指導要領の内容

1. 年間指導計画、月間指導計画、週案（教材作製方法を含む）
2. 領域別指導計画書
3. 週単元に基づいた保育活動集

c) 指導要領の実行

資料完成後、一週間にわたり中央訓練所においてJOCVによるASDO、本部スタッフへの説明会を開催。

その後13園で試験的に使用し、全幼稚園に配布される。

1. 2 第二期

JOCVの作った指導要領を各地方事務所に配布し、講習会を受けたASDOあるいは各地に配属されているJOCVの指導のもと、実践するようになる。

a) 活動内容

指導要領の実践普及を中心とした活動が主となる。

活動の場が入植地に留まらず周辺地（地方事務所単位）にまで拡大したり、教師の講習会の開催、出張指導等幅広く効果的に進められた。

この時期より中央訓練所の幼児教育コースにJOCVも講師として配属されるようになり、各地方事務所や隊員との連携も深まり、より一層浸透するようになる。

b) 一年間の試行の成果

- ① 教師は、毎日、明日は何を教えようか一人で頭を悩ませなくともすむようになった。
- ② 教え方が段階を踏んでいるので、子供達がついていきやすくなり、それが彼等や教師達の意欲の増進につながり、全体のレベルや出席率も上がってきた。
- ③ 段階を追って指導していく大切さと、指導方法、手順がわかってきた。
- ④ 教材等で手に入らない物等は、教師達自身でそれぞれの代用品になるものを考えて用意していた。

問題点

- ① 2部制保育を行っている所は時間が足りない、又前日の準備にも時間がかかる。
- ② 基礎知識のない教師が、この指導書を十分に生かし切るところまではゆかず単に面白そうな活動のつまみ食いになりかねない。
- ③ 教師やASDO/SDAは、常に数カ月前の活動を頭に入れて先を読む姿勢をとっていかねばいけない。  
しかし、この一年間JOCVにたよりきつりでJOCVが帰った後や、JOCVのいない地域は果してどこまで続行できるか疑問であり、不安である。

1. 3 第三期

1984年-1985年の間、派遣人数が一時期21名となり、各地方事務所付のASDOと協力して勉強会の充実が計られる。

勉強会に関する資料は勉強会 (Bengkel) 報告書参照。

この時期に教育省から、新幼稚園カリキュラムと活動集それに伴う教材が発行され、各幼稚園や中央訓練所でも使用されるようになった。

中央訓練所の講習も充実し、一年に長期講習が3回(3ヶ月コース)、短期再講習が1回(2週間コース)実施されるようになった。

カリキュラムが発行されて、中央訓練所の講習内容も一段と充実してきた。

JOCVも講師として音楽、絵画製作、体育遊びを指導。しかし宗教上の問題もあり、内容等にいろいろな制限を受けたが、その都度改善しながら進めていった。

中央訓練所では、1990年までに6名の隊員が一年交替で活動を行ってきた。

1) 中央訓練所で行われた講習会回数及び内容

1973年(短期)	7月30日	～	8月11日	65名
	12月3日	～	12月15日	62名
1974年(短期)	10月28日	～	11月2日	22名
	12月19日	～	12月31日	29名
1975年(短期)	4月7日	～	4月19日	36名
	8月4日	～	8月9日	10名
	12月1日	～	12月20日	28名
1976年(短期)	4月5日	～	4月17日	32名
	12月6日	～	12月18日	32名
1977年(長期)	1月31日	～	4月30日	32名
1978年(長期)	4月24日	～	7月29日	19名
1979年(長期)	1月31日	～	5月5日	30名
1980年(長期)	1月14日	～	4月19日	26名



1980年 (長期)	10月27日	~	11月13日	36名
1981年 (長期)	1月5日	~	4月4日	23名
1982年 (短期)	5月3日	~	5月22日	27名
	5月31日	~	6月19日	30名
(長期)	8月15日	~	12月18日	30名
(短期)	11月16日	~	12月18日	30名
1983年 (長期)	1月4日	~	5月6日	29名
	(短期)	9月19日	~	10月15日
	11月17日	~	12月3日	18名
1984年 (長期)	1月9日	~	7月17日	30名
	(短期)	5月5日	~	5月19日
	11月13日	~	12月8日	34名
1985年 (長期)	1月15日	~	5月18日	30名
	4月1日	~	8月10日	30名
	9月1日	~	12月28日	30名
(短期)	12月3日	~	12月21日	29名
1986年 (長期)	1月6日	~	5月10日	30名
	10月27日	~	12月25日	31名
	1月6日	~	5月10日	30名
	6月16日	~	10月18日	50名
(短期)	11月3日	~	11月22日	27名
	12月1日	~	12月20日	22名
1987年 (長期)	1月5日	~	5月9日	29名
	6月8日	~	10月17日	29名
	8月17日	~	12月12日	31名
(短期)	11月2日	~	11月14日	27名
	11月30日	~	12月12日	28名
1988年 (長期)	1月10日	~	4月9日	25名
	1月10日	~	4月9日	30名
	6月13日	~	9月10日	29名
	10月9日	~	12月31日	29名
1989年 (長期)	1月9日	~	3月30日	25名
	10月22日	~	1月13日	28名
(短期)	9月18日	~	10月3日	21名
1990年 (長期)	8月13日	~	11月10日	25名

計 1, 421名

## 中央訓練所で行われた講習会内容

- 第1週
  - ・ オリエンテーション
  - ・ 子供の発達段階
  
- 第2週
  - ・ 付属幼稚園の見学とそれについての話し合い
  - ・ 言語－幼稚園での言語教育の目的と具体的な活動例について
  - ・ 算数－幼稚園での目的と具体的な活動例について
  
- 第3週
  - ・ 科学（自然）－幼稚園での科学（自然）教育の目的と具体的な活動例
  - ・ 健康、道徳（宗教）－幼稚園での健康、道徳（宗教）教育の目的と具体的な活動例について
  
- 第4週
  - ・ 絵本について－読み聞かせの方法、絵本の選び方
  - ・ 週案、日案の立て方
  
- 第5週
  - ・ 週案、日案の立て方
  
- 第6週
  - ・ 幼稚園教諭の望ましい姿について
  - ・ 幼稚園教諭の園における役割、責任
  
- 第7週
  - ・ 絵本の読み聞かせの実習
  - ・ 算数を教える為の教材作り
  - ・ イスラム教の立場からの幼児教育について
  
- 第8週
  - ・ 絵本の読み聞かせの実習
  - ・ 言語を教える為の教材作り
  
- 第9週
  - ・ 小学校と幼稚園とのつながりについて
  - ・ 幼稚園での軽食について
  - ・ 教材作り
  
- 第10週
  - ・ 教材作り
  
- 第11週
  - ・ 科学（自然）を教える為の教材作り
  - ・ 教材作り
  
- 第12週
  - ・ 園外保育について
  - ・ 絵本の読み聞かせの実習
  
- 第13週
  - ・ 絵本の読み聞かせの実習
  - ・ イスラム教からみた幼児教育と幼稚園教諭
  
- 第14週
  - ・ 言語、算数教育のための教材作り
  - ・ 実習（講習生が子供の役をやり、一人が先生となって1日園で教える真似をする）

第15週 ・ 調理実習

第16週 ・ 実習 (第14週と同じ)

第17週 ・ 実習 (第14週と同じ)  
・ テスト

第18週 ・ 教材作り  
・ できた教材で、講習生同志使い方、目的などについて話し合う

以上の内容の他に毎週音楽リズム、絵画製作、体育遊び、宗教等がある。

## 2) FELDA 独自のカリキュラム作成

9年の歳月を要し、1984年に新幼稚園カリキュラムが教育省から発行され、各幼稚園や中央訓練所などで使われるようになったが、FELDAは更に独自のカリキュラムを作成することになった。

JOCVの隊員4名、FELDA本部より4名、中央訓練所より2名、ASDO2名の計12名でメンバーが構成された。

JOCV側は、この指導書がいかに重要かを説明し、もっと時間をかけて話し合うことを伝えたが理解してもらえず、5回だけの話合いに終わってしまった。

JOCV側は、この指導書を中心に今後FELDAの就学前教育を行い、中央訓練所で教育省のカリキュラムとこの指導書に従って研修が行われることを期待したが、FELDAは“FELDA独自のもの”に固執した。

しかし、Socialスタッフが幼稚園活動について自分達でやっていこうという気持ちを持ち始めたのはたいへん良い成果だと思う。

いくつかの課目を各自で分担し、それをみんなで検討する方法で行われてきたが、だんだんと各課目別に独立してしまった。

軌道修正を行おうとしていた矢先、教育省より改訂版がでたことと、FELDA本部の幼稚園関係の責任者が他の部所へ異動した為、この指導書作成が完成に到らなかったのは実に残念なことである。

## 3) 技術専門委員による隊員活動調査及び巡回指導

FELDA幼稚園のプログラムに、1980年より30数名の隊員が派遣されFELDAの幼稚園の状況も随分変わってきて、隊員活動も内容変更せざるを得なくなっている。

この時期(1985年)にFELDAより評価調査(アンケート方式)の提案がなされ、この機に隊員活動を検討し、今後どのように活動していけばよいかの調査を技術専門委員に依頼する。

今回の幼稚園視察及びFELDA本部との懇談を通じ“FELDAの幼稚園に対する熱意を感じると共にその成果にふれることができた”との技術専門委員の感想であった。

今後の活動に対する提案は次の通りである。

① 中央訓練所での教師養成講習について

現在（1985年）中央訓練所で行われている4ヶ月講習は、幼稚園教育の将来を考えると非常に意義のあるものであるが、これをさらに教育の現場に直結した効果的なものにする為に以下の通り提案したい。

- a) 3ヶ月～4ヶ月講習の内容の中で、講義と実習の割合をより実習に重点を置いたものとする。

（教育の現場で最も必要とされる、子供との上手なコミュニケーションの技術実習を通してさらに十分習得させる必要がある。）

- b) 子供の発達段階に応じた年齢別のカリキュラムが必要である。

（幼稚園教育の対象は制度上6才のみだが、実際には4～5才児も一緒に保育されているケースが多い為、4～5才児は遊びを多くして教師の指導を的確に行うことが必要である。）

② 中央訓練所で行われた講習のフォローアップについて

- a) 公開保育及び勉強会

3～4ヶ月講習のフォローアップとして公開保育及び勉強会（ある幼稚園の教育の現場を同僚の教師達が観察し、それについて教師達の間で意見をかわし合う）が大変効果的である。

これは現場である入植地の幼稚園で、地域ごとに行われることが望ましい。

- b) 巡回指導について

FELDA本部、中央訓練所、JOCVが入植地の幼稚園を定期的と一緒に巡回指導することは、非常に意義がある。

予算上の制約は十分に理解しているが、これにより中央訓練所での3～4ヶ月講習が教育の現場でいかに生かされているか、又教育要領が現場にいかに浸透しているかを観察し、講習のフォローアップとして教師を指導するとともに中央訓練所の講習の改善等、その後の対策を話し合う機会を持つことができる。

③ FELDA本部からASDOへの指導について

入植地の幼稚園教育が効果的に行われる為には、ASDOの幼児教育に対する正しい理解が不可欠である。

1989年にFELDAが計画しているASDOの研修は、大変重要である。

#### 1. 4 第四期

一時期隊員の数が1名となる。

これは、FELDA側がJOCVの活動評価調査を行った為（JOCVの派遣はまだ必要か？）であり、調査の結果によっては要請を取りやめる意向であったが、結果は必要であると出たため再要請がだされた。

##### 1) 活動内容

地方事務所付で巡回指導を中心に活動。

一人で数十園を担当しており、活動も自然と限られたものになってきた。

教材、教具の製作はほとんど行われず教師の質の向上に重点を置き、技術顧問の提案に基づく公開保育の開催活動を中心に行う。

公開保育に関する資料は勉強会(Bengkel)報告書項目4参照

1989年にシニアが派遣され、今後の活動方針等を話し合い終結に向けての活動として以下の通り計画し、実行する。

a) 勉強会で使用する教材としてビデオ製作をする。

- ・ 公開保育のすすめ方
- ・ 良い資質を持った教師の1日の保育
- ・ 各領域の活動例
- ・ 体の発達に沿った体育指導

b) 子供の発達記録表作り（カリキュラムに添った項目にする）

c) 良い資質を持った教師になる為の参考書

d) 新教師採用時のチェックポイント

e) ASDOに対する講習会の開催（FELDA主催）

1989年8月7日 - 12日 中央訓練所

- 内容
- ・ 子供の発達段階
  - ・ 教授法
  - ・ 指導の準備
  - ・ 指導方法
  - ・ 子供の評価達成
  - ・ 小グループ討論会
  - ・ 就学前教育の指導要領
  - ・ 分科会
  - ・ 倫理
  - ・ 言語への興味の引き方
  - ・ JOCVとの協力について

f) ASDOの日本研修派遣

g) セミナーの開催（別添参照）

h) 父兄の幼児教育に対する興味、理解の把握と促進の為のアンケート調査

i) JOCV11年間の活動報告書作成

##### 2) FELDA民営化の動き

1990年1月FELDAの民営化方針が打ち出され、5年後に政府予算が半減する為経費節約、人員削減、組織改革等を行っている。

それに伴い、FELDAは幼稚園の運営管理をKEMASに委託した。

1989年11月の1名の隊員派遣を最後に、新規要請は行われていない。

このFELDA方針が打ち出される以前、JOCVとしてもすでに10年以上継続派遣を行い協力効果を上げたとして、FELDA側に当該職種隊員の終結を表明していた。  
シニア隊員を中心に今までの集大成的活動を行い、長年にわたる協力活動の終結をはかった。  
今後、FELDA側の評価のあり方によっては将来新たに派遣は考えられるが、事務所側は新規派遣は行わない意向である。

## 2. 全活動を通じた問題点

### 2.1 教師

- a) 情操面、躰（基本的生活習慣の自立）面の比重が少なく知的発達を促すことに重点が置かれている。
- b) 教師の教え方  
準備不足をはじめとし、細かい配慮や保育の過程において導入・展開・まとめの一連の流れがなく一つ一つが途切れがちで、特に子供の意欲をそそるような導入の働きかけがない。  
また集中させる方法を知らない。
- c) 日案  
小学校のように一時限目は数、二時限目は言語などとなって一つ一つが途切れており、1日の保育の流れに関連性がない。
- d) 教師の子供へのかかわり方  
教師が子供の中に飛び込んでいかず、いつも一步離れたところで子供を保育しており、上から下へ教えるという関係が濃い。  
子供の次元に立って子供の目で物を見、子供と一緒に遊び様々なことを感じとって共鳴しあうことが見られない。
- e) 情操面（音楽、絵画）に対する認識が薄い為、指導が少ない。
- f) 講習を受けてきてもそれをうまく使いこなせない。
- g) カリキュラムを基に発達段階に添った週案、日案の立て方ができていない。
- h) 教師の資質、幼児教育の必要性、あり方等に関する知識、考え方が不足している。
- i) カリキュラムをうまく利用していない。
- j) カリキュラムに唱えられている“遊びながら学ぶ”が保育に取り入れられていない。

### 2.2 ASDO/SSD/SDA

- a) 幼稚園教育に何が重要か、理解していない為“教材作り”ばかりを強調し、指導計画に添ったアドバイスができない。
- b) 婦人会、自治会の仕事を兼ねており、他の仕事が多すぎて幼稚園が手薄になる。
- c) 子供に対する健康管理（歯科検診、健康診断等）があまり実行されていない。

### 2.3 中央訓練所

- a) 講師は専門知識が少なく、現場経験者がいない。
- b) 講師の人数不足
- c) 講習会の内容が毎回違っていて、教師達がとまどう。
- d) 教材作りが主流をなし、遊びながら自然に学んでいけるような方法で保育する内容に欠ける。
- e) 新しい方法、他の園での良い指導を取り入れようとしない。

- f) 講師間の話し合いが少ない。
- g) フォローアップがない。
- h) 教師になる前の講習がなく、教師になってから講習をしている。

#### 2. 4 FELDA本部

- a) 幼稚園に関する専門スタッフがいない。
- b) 地方事務所、入植地サイドの幼稚園関係スタッフ不足。
- c) FELDA側のJOCVに対する考え方の変化  
(上司の交替、任期中のカウンターパートの交替等で)
- d) 本部、中央訓練所、地方事務所、入植地の繋がりが無い。
- e) FELDA側とJOCV側の協力活動に対する考え方の違い
- f) 幼稚園の環境整備が整わないうちに開園してしまう。
- g) 各機関の幼稚園との交流が少ない。
- h) 幼稚園の責任者が不明確である。

#### 2. 5 教材、教具

- a) 保育室内に置いてある教材・教具が多過ぎ、子供達が活動するスペースを奪われたり、変化や刺激のないマンネリの教材・教具になっている。
- b) 教材の有効利用の仕方が理解されていない。

#### 2. 6 JOCV

- a) 言語の問題。  
(自分の考えや、思っていることを正確に伝えることができない)
- b) 宗教の違い、価値観の違い。
- c) 生活習慣の違い。
- d) 教育法の違い。
- e) 人間関係

#### 2. 7 その他

- a) 保護者や地域の幼児教育に対する関心と協力が少ない。
- b) 各幼稚園に園長がいない。
- c) マレーシアに幼稚園教諭になる為の養成機関がない。
- d) 仕事に対する問題意識の違い。

### 3. FELDA (連邦土地開発公団) の協力体制

FELDA側がJOCV幼稚園教諭隊員に求める職務内容

- a) 入植地で幼稚園におけるプログラムを指導し、水準を上げる為に幼稚園教諭を支援することに責任を持つ。
- b) 一カ所の入植地で幼稚園の活動を進め、幼稚園教諭達を教育監督する。
- c) 不十分な指導技術、または園舎を修正する為の準備をする。
- d) 必要とされている期間、幼稚園コースを中央訓練所で実施する為に社会部を支援する。
- e) 幼稚園が休みの時に、幼稚園教諭の為に講習会をASDOと一緒に開く。

隊員活動も以上の5点を中心に進められた。

しかし、月日がたつうちに改善しなければいけない項目も出てきたが、それはその都度FELDA本部の幼稚園担当者と話合って改善してきた。

何度かのJOCV担当(社会部)の交替はあったものの全般的に見て、FELDA側はたいへん協力的であった。定期的に会議を開き各隊員が抱えている問題を解決し、活動の為に協力も得られた。

(会議に関する資料は会議録参照)

またFELDA側からの隊員支援経費として、1,200マレイシアドル(10年前-12万円、現在6万円)の会議、巡回指導等の交通費、日当、宿泊費等の請求、デモンストレーション費として100-150マレイシアドルの請求、オートバイのガソリン代の請求等が用意されていた。

### 4. JOCV事務局の協力体制 (支援経費)

#### a) 供与機材

- ・ 固定遊具 (ブランコ、シーソー、すべり台、ジャングルジム、砂場等)
- ・ 備品 (机、椅子、棚、フェンス、カスタネット、タンバリン、トライアングル等)
- ・ 電子オルガン  
音楽・リズムの講義用として中央訓練所に設置
- ・ オルガン数十台 (北海道の廃校になった小学校より寄贈)
- ・ 専門書 マレイ語絵本  
中央訓練所、または各地方での勉強会の充実の為に参考資料
- ・ 幼児の歌 カセット制作 (カリキュラムに合った歌集)  
第一回目 スタジオ使用費、マスターテープ代 M\$ 1,700  
プロ演奏者謝礼金 M\$ 600  
第二回目 カセットコピー代 (350本) M\$ 1,243
- ・ 幼児の活動集 (Buku Akitiviti Kanak-kanak) 制作  
第一回目 (300部) M\$ 12,500.00  
第二回目 (300部) M\$ 10,800.00

#### b) 講演

1985年6月 副島ハマ国立音楽大学教授による講演

JOCVを対象とした講習会 (FELDA側からも参加)

ねらい : 初代の先輩の頃とくらべると、ずっと活動しやすい状況になっているが、同時にJOCVに対する期待が高まってきている。

そんな状況の中で、原点に戻って幼児教育について見つめ直し、よりよい協力活動が展開できるようにする。

#### c) セミナー開催

マレイシアの幼児教育関係者を対象に“遊びながら学ぶ”をテーマにセミナーを開催  
詳しいことはセミナーに関する報告書参照



## SABAH 州 FELDAにおける JOCV幼稚園隊員の活動

### I. JOCV幼稚園隊員の活動期間及び任地

No	名 前	任 地	期 間
1	岡久 明美	FELDA Umas-umas , Tawau	1986年4月 ~ 1987年5月
2	田中知勢子	FELDA Umas-Umas , Tawau	1988年8月 ~ 1990年7月
		FELDA Sahabat , Lahad Datu	1990年8月 ~ 1991年7月

### II. 要請背景

Sabah 州でのFELDAの開発は半島マレーシアに比べ新しく、Tawau地区のUmas-Umasに入植が始まったのは1986年1月である。

その後、まもなく幼稚園が開園された。

幼稚園の運営管理を担当するFELDAの職員S.D.A. (幼稚園の他、入植者、婦人育成、生活健康改善、年少子女教育等を業務とする) は経験がない、又幼稚園の教師も入植者の子弟で、幼児教育についての専門知識も経験もなく、幼稚園に関しては零からのスタートであった。その為JOCV幼稚園教諭隊員の要請が出された。

Sabah州における入植地数

Tawau 地区  Umas-Umas ( 1 - 6 ) 2,3,4,5 入植済み  
 Kalabakan ( 5 )

Lahad Datu 地区 Sahabat ( 1 - 57 ) 1,2,9,14,16 入植済み

### III. FELDA Umas-Umas

#### 1. 赴任以前の幼稚園の状態 (1986年1月~1986年4月以前)

- \* 開園 1986年1月
- \* 園児数 27名 (現在 150名)
- \* 教師 1名 (入植者の子弟) (現在 4名)
- \* 園舎 集会所借用 (現在 幼稚園舎)
- \* 保育の状態 FELDAの中央訓練所による、SDAの講習会で使用されたかなり以前のカリキュラムに従って保育していたが、経験のない教師は内容がよく理解できず、子供にふりまわされて日々の保育が終わっていた。
- \* 備品 鉛筆、ノート、クレヨン、などの筆記用具の他は殆どない状態。

## 2. JOCVの活動とその効果

第一期 (1986年4月～1987年5月) 隊員：岡久明美 (59/3) 半島から赴任

活 動	効 果
① 教師に幼児教育の基礎を指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マレーシアの教育省発行の指導書をもとに幼児教育の必要性、重要性について。</li> <li>・ 幼稚園教諭としての役割、資質について。</li> <li>・ 幼児の発達段階及び幼児との接し方について。</li> </ul>	初めの頃は幼児の発達段階、状態を考慮せず強制的に文字、数等を教えていた教師がJOCVの指導、及びFELDAの幼稚園教諭養成コース(4ヶ月)を受講したことにより、幼児教育について興味・関心が出てきた。
② 保育の充実を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案立案の指導</li> <li>・ 教材作製 (廃品利用及び写真、菓子販売、職員の寄付による資金活用)</li> </ul>	以前の保育は、計画性がなくその場限りだったが指導案を立てることにより保育の内容も向上してきた。  教材がほとんどなくまた予算もなかったが、資金を集めたり、廃品を利用したりして保育に必要な教材を徐々に揃える。
③ 園庭整備工事 (1987.3.18 ~ 1987.4.5) (JOCV造園隊員の協力により園庭造りを実施)	戸外遊びに対する興味が増し、自主的な遊びや集団遊びが増えた。

### 問題点

FELDAの本部と、入植地事務所との考えに大きな開きがあり、実際に入植地で活動する隊員にはそのギャップの解決は困難である。

カウンターパートのASDO, SDAは幼稚園に関して知識がないだけでなく、ほとんど関心を示さずJOCVに任せきりであった。

第二期 (1988年8月～1990年7月) 隊員：田中知勢子 (63/1)

### 要請背景

前任者のFELDA Umas-Umasにおける任期が1年間で、関係者の幼児教育に関する理解が不十分なこと、また1987年以降Umas 3,4,5に新たに入植が続く幼稚園の規模の拡大に伴いJOCV 幼稚園教諭隊員の後任要請が出された。

赴任時の状態 (1988年8月)

前任者の活動終了後1年3カ月の間、関係者はほとんど変わっていなかったが、園庭、遊具、教材などかなり荒れたり傷んだりしており、管理のずさんさが目立った。

- \* 園児数            100名            3クラス
- \* 教師                3名            補助1名
- \* 園舎                教室3、台所1、倉庫1、図書室1、トイレ2
- \* 園庭                砂場、小屋、タイヤ、丸太の遊具

- ・教師3名のうち2名は前任者の指導を受けていたが、新しく開設された(1988・1) Umas 3のクラスの教師は、経験がなく幼児教育に関する基礎の指導が必要であった。
- ・Umas 1,2,3の統合園であるが、運営は各入植地事務所によって行われ予算や幼稚園の活動がまちまちであった。

活 動	効 果
<p>1、教師及び保育の質の向上をはかる</p> <p>① 日常の保育観察及び助言。</p> <p>② 指導案立案の指導 年間計画、週案、日案。</p> <p>③ 勉強会の企画、実施</p> <p>a. 毎月の定例勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の保育にすぐ活かせる教材作り 各教科の実技指導を中心にする。</li> </ul> <p>b. 長期休み中の勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育の基礎知識に関する講義、 教材研究、実習指導。</li> </ul>	<p>主に新任教師を対象に行ったが、経験を積むにつれて助言についての理解も深まり、保育に反映できるようになった。</p> <p>年間を通しての計画がなく、その場その場の保育を行っていたため保育に一環性がなく、準備不足が目立った。</p> <p>年間計画、週案、日案の意義を指導することによって、一年間の保育の概要及び日々の保育の指導案を教師自身が考えられるようになった。</p> <p>近隣に他の幼稚園がないため、新しいアイデアや知識を得る機会が少なく、保育がマンネリ化しない為にも勉強会は必要である。</p> <p>幼児教育の専門知識のない教師達も、勉強会によって基礎的な知識を得ることができた。</p>

<p>c. 公開保育 (保育研究会)</p> <p>2、園児の健康管理</p> <p>a. 毎月の身体測定実施</p> <p>b. 年2回の健康診断 (内科、歯科検診) 実施</p> <p>3、保護者とのコミュニケーション</p> <p>a. 幼稚園に関する説明会</p> <p>b. 家庭訪問 (年2回)</p> <p>c. 出席ノートによる意見交換</p>	<p>他の教師の保育を観察し、子供達の興味のひき方接し方等、具体的な視点から考えることができるようになり、自分自身の保育を向上させる為の良い機会となった。</p> <p>健康診断で園児の健康状態を把握し、治療が必要な疾病の早期発見、治療ができた。</p> <p>歯科・・・98%の園児にう歯があり園、家庭と衛生指導を行い虫歯予防の意識を高める。</p> <p>保護者は、子供の保育を幼稚園に任せきりでありであったが、徐々に関心を持つようになってきた。</p> <p>特に、家庭訪問は各園児の状態とお互いの(園・家庭)理解を深めることができ有意義であった。</p>
--	---

#### IV. FELDA Sahabat

##### 1. 要請背景

Sabah 州では、Umas-Umasの次に入植が行われたFELDAである。(1989年1月～)  
 Umas-Umas と同様S.D.A、教師共幼児教育に関する知識、経験がない為JOCV 幼稚園教諭隊員の要請が出された。

##### 2. 赴任以前の状態

- \* 開園年月日 1989年5月
- \* 園児数 98名 (現在 114名)
- \* 教師数 3名 (現在 3名)  
(うち1名はFELDAの幼稚園教諭養成コースを受講済)
- \* 園舎 宗教学校借用 (現在 新園舎)
- \* 保育の状態 FELDAのカリキュラムに沿って保育されていたが、入植地内での勉強会は全く行われておらず、内容がワンパターンであった。  
以前、Tawau地区のASDOとの協力でFELDA Sahabat地区の巡回指導(勉強会)を数回行っているが、まだ基盤ができていない。

3. 活動 (1990年8月～1991年7月)

活 動	効 果
<p>1. 教師及び保育の質の向上をはかる</p> <p>① 日常の保育観察及び助言</p> <p>② 指導案立案の指導 年間計画、週案、日案</p> <p>③ 勉強会</p> <p>a. 毎月の定例会</p> <p>b. 長期休み中の勉強会 FELDA Umas-UmasとSahabat地区合同 勉強会</p> <p>c. KEMAS での勉強会</p>	<p>経験の浅い教師ばかり(4ヶ月～1年)だったが「学びたい」という意欲があったので、熱心に助言等を受け入れていた。</p> <p>最初のうちは、保育をいかに充実させるかということよりも、ただ形式的に書いているという状態だったが、助言や指導により教師自身が考えて立案し内容も徐々に改善されてきた。</p> <p>SDA、教師と共に保育の年間計画を立てることにより、見通しをもって仕事ができるようになってきた。</p> <p>ASDOとの協力関係を持つことができASDO、SDAも出席し内容が充実してきた。</p> <p>又、各教師が課題に沿って教材研究等をし発表、検討するという教師主導型も可能になってきた。</p> <p>双方のASDOとの協力で、初めて合同の勉強会を開くことができ、それまで他園との勉強会をしたことのなかった両園の教師にとって、新しいアイデア、知識、経験を得る良い機会となった。</p> <p>1991年2月1日よりFELDAの幼稚園はKEMASに委託された。その後2ヶ月程FELDAの勉強会は延期になったが、隊員がKEMASでの勉強会を受け持ったことで相互の理解につながった。</p>

V. 問題点

配属先の意識 (カウンターパート)

FELDAの幼稚園であるにもかかわらず、自分達の手で良い保育をしていこうという意識がない。担当のSDAは、幼稚園に関心がなく自分の任務を隊員に任せようとし、責任を持たない傾向にあった。その原因として考えられること・・・SabahのASDO、SDAは全員経験が浅くまた地理的に孤立しており、入植地も2ヶ所しかないため、外部からの刺激がなく慣れ合いが生じ、仕事に対しての意欲に欠ける。

## VI. 対策

JOCVが仕事、勉強会の計画を立てても、現地の人との考え方の相違があり無理して計画通り進めようとして摩擦が起きたり、反感を買うこともあった。

時間はかかっても、現地の職員、入植者の手によって子供達を育てていくという意識を高めることが必要である。

最初は幼児教育に関心がなかったASDO、SDAに勉強会、講演会等で繰り返し幼児教育の重要性を伝えてきた結果、徐々に理解を示してきた。

特に、1989年8月に実施されたASDO対象の幼稚園講習会に参加したことで、関心、理解が深まった。

また1990年8月にFELDA Sahabat地区に半島からASDOが着任。

このASDOとの連絡を密にすることにより、ASDO、SDA、JOCVとの関係が深まった。

そして勉強会も、ASDOとの協力で充実した内容のものを実行できるようになってきた。

今後はASDO、SDA、入植地事務所、教師、住民が協力し自分達の手で幼児教育を更に発展させていくことが望ましい。

## VII. 今後の課題

1991年2月1日よりFELDAの幼稚園はKEMASに委託された。

しかし、運営については従来通りFELDAが行うことになっているので、今後幼稚園教師の保育の質を向上させるために、次のことが課題としてあげられる。

### 1. 勉強会の企画、実施

KEMAS主催の勉強会は、月1回であるのでFELDA独自の勉強会を継続する。

- ・ 毎月の定例会
- ・ 長期休み中
- ・ 公開保育
- \* ASDOに参考資料（ビデオ）を引き継ぐ。

### 2. 関係者の意識向上、協力

- ・ 幼児教育は、幼稚園だけで行うものでなく家庭・地域社会・幼稚園が協力し一体となってこそ効果的な教育ができる。

このことを啓蒙し、実行していけるのはASDO、SDAなど社会開発部門の担当者だと思う。関係職員、教師、保護者の相互理解と協力の上で、ここの幼児教育を発展させていくことが望まれる。

## 会議録

1. 配属先 (FELDA) と隊員の定例会議

[ 参加者 : FELDA本部協力隊担当職員、隊員、隊員カウンターパート、協力隊事務所員 ]

日時・場所	討議内容
<p>1980.05.13 FELDA SEMENCU</p>	<p>－ FELDA側意向として －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) JOCVは一つの入植地を見ることを義務づける その入植地が発展・改良されれば近くの入植地での活動を認める</li> <li>2) JOCVが配属されてから、3ヶ月はオリエンテーション期間である その後カウンターパートと共に3ヶ月のプログラムを作成する</li> <li>3) どのJOCVに対してもS.S (シニア スーパーバイザー)、A.M (アシスタント マネジャー) の地位のカウンターパートが一人与えられる そのカウンターパートはフルタイムJOCVと共に職務遂行すること、その為に入植地の職員が不足するなら職員一人を要求できる</li> <li>4) JOCVは種々の会議に出席すること 社会開発部との会議3ヶ月に一度、地方事務所での会議1ヶ月に1回、入植地での会議1週間に1度</li> <li>5) 毎月、活動報告レポートを提出するように</li> <li>6) 幼稚園活動の意向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの入植地において活動すること</li> <li>・ 子供の人数が多い場合はその手助けをする</li> </ul> </li> </ol> <p>－ JOCV側より －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現状報告及び問題提起</li> </ol>
<p>1980.08.05 SUNGAI KOYANG 2</p>	<p>－ FELDA側より －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) JOCVは3ヶ月計画をFELDAの会議に提案できるようにすること</li> <li>2) 任期終了するJOCVは最終レポートを社会開発部に提出すること</li> <li>3) ASDOはJOCV幼稚園隊員のカウンターパートとなり、JOCVの活動に責任を持つ</li> </ol> <p>－ JOCV隊員側より －</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) FELDAは情操教育に重点をおくのか、それとも知的教育に重点をおくのか意見を聞きたい</li> </ol>

1980.12.04 中央訓練所	<p>2) コーナー制に関してはドイツボランティアの影響を強く受けるものか</p> <p>3) FELDAがJOCVに望むことは、教師への技術指導か或は子供への直接指導か?</p> <p>4) 幼稚園の現状を知る為、中央訓練所の研修を見学したいが、可能か?</p> <p>5) ドイツボランティアとの話しあいを持ちたいが、可能か?</p> <p>— FELDA側より —</p> <p>1) 出張旅費請求について</p> <p>2) 幼稚園の現状報告</p> <p>3) 中央訓練所の見学について</p>
1981.04.16 FELDA奨学生寮	<p>— FELDA側より —</p> <p>1) 中央訓練所長のJOCVとFELDA会議への招待について</p> <p>2) 手当の請求、支払いに関して</p> <p>3) 地方事務所単位のJOCVとの会議に関して</p> <p>— JOCV側より —</p> <p>1) ASDOとSDAのカウンターパートとしての協力姿勢について具体的にしてほしい</p> <p>2) 2ヶ月に1回研修を持ちたい</p> <p>3) JOCV幼稚園教諭隊員が、活動している入植地の幼稚園を見学したい</p> <p>4) デモンストレーション資金の増額について</p>
1981.07.21 FELDA本部会議室	<p>— FELDA側より —</p> <p>1) FELDAの幼稚園の概念について</p> <p>2) 幼稚園の活動に関して</p> <p>3) 科目・領域について</p> <p>4) 遊びのコーナーについて</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>5) 幼稚園の運営・管理について</li> <li>6) 幼稚園の先生の質評価</li> <li>7) 日本人ボランティアの役割について</li> <li>8) ASDOについて</li> <li>9) ワークブックについて</li> <li>10) 幼稚園の指導要領について</li> <li>11) デモンストレーション資金について</li> <li>12) JOCV木工・建築隊員への遊具製作依頼について</li> <li>13) 中央訓練所にJOCVが入る件に関して</li> </ul> <p style="text-align: center;">- JOCV側より -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 幼稚園の予算がない問題について</li> <li>2) 勤務日誌に関して</li> <li>3) 教師の教育態度・生活態度の問題点について</li> </ul>
<p>1981.12.07 FELDA奨学生寮</p>	<p style="text-align: center;">- FELDA側より -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) JOCV隊員異動に関して</li> <li>2) 地方事務所開発会議について</li> </ul> <p style="text-align: center;">- JOCV側より -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 中央訓練所において、単に技術指導をするだけでなく、幼児に接する姿勢や心得などに関しても研修する必要性があること</li> </ul>
<p>1982.02.10 FELDA本部会議室</p>	<p style="text-align: center;">- FELDA側より -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 教師の勤務評定は、JOCVとFELDAスタッフが一緒になって評定すること</li> <li>2) JOCVは新学期1ヶ月～3ヶ月は子供の躰を重点的に指導すること</li> <li>3) 幼稚園予算がM\$500以上の場合、銀行に預金すること</li> </ul>

- 4) FELDAの幼稚園教師の給与改定について
  - 5) ワークブック・歌の資料に関して
  - 6) 教師に対するコメントは訪問者用コメントノートに記入する
  - 7) 園児が100名以上の場合は、教師をもう一人雇うことができる
  - 8) JOCVは地方事務所開発会議に出席すること
  - 9) 自分の入植地の園を改良した後、他の入植地の園を見学してもよいが勝手に一人でいくのではなく、ASDOと共に行動すること
  - 10) 週単元についての話し合いは教師と一緒にすること
  - 11) 教師が、幼稚園の中で園児に対して菓子を売ることは、政府の規約により禁じられている
  - 12) JOCVは帰国前に必ずハブサ女史（協力隊担当）に会いに行くこと
  - 13) 幼稚園に宗教指導者が来て、イスラムの話をするとか、本を見せるとかの子供に対するサービスがあるが、お祈りを子供も一緒になつてすることなどは必要ない
  - 14) 1983年から全ての幼稚園教諭志願者は、教師として働く以前に、6ヶ月の研修を受ける
  - 15) FELDAの幼稚園に不適當な教材のセールスマンが、最近歩きまわっているがその購入はやめるように
- － JOCVより出された意見文書について －
- 1) 園舎・幼稚園管理の改善策の詳細を提出すること
  - 2) JOCVメンバーの中から2名は、代表として幼稚園連盟の委員会会議に出席すること
  - 3) 中央訓練所のスタッフは次のJOCVとFELDA会議から招集される
- － FELDA側より －
- 1) ハブサ女史（協力隊担当者）が8月に退職する予定である後任にファティマ女史或は、アバス氏が予定されている

1982.05.06  
FELDA本部会議室

- 2) 幼稚園教師の給与が今年2月より改定された
- 3) FELDAとJOCVの会議のレターについて
- 4) JOCV幼稚園隊員のカウンターパートについて
- 5) 園児と教師の定数に関して
- 6) 教師のGPW（婦人活動）会長兼任について
- 7) JOCVの意見を取り上げてもらえない入植地について  
（ランドローバーの手配も含む）
- 8) JOCVは幼稚園教師に対し、次の週の単元についてその具体的な指導方法を教えること
- 9) 着任間もない隊員は、子供や教師の様子を見学し、クラスを受け持ったりしその後教師に指導すること

1982.09.21  
FELDA本部会議室

- FELDA側より -
- 1) FELDA、JOCV会議の開催時期について
  - 2) 元カウンターパートの会議出席について
  - 3) JOCV隊員の任地決定等はFELDA本部で決定するが、大半は地方レベルで解決することができる
  - 4) 活動報告レポートは毎月必ず本部に提出すること
  - 5) カウンターパートは遠距離でも2週間に一度は必ずJOCVを訪問すること
  - 6) FELDA パロン7の幼稚園建設援助金として本部からM\$7000支出されることになっている
  - 7) JOCVは地方開発部門の会議に出席するように
  - 8) FELDAの上層部と下層部でJOCVの認識が違う為、新隊員が地方事務所訪問の際駐在員（調整員）、FELDA本部の担当職員が同伴し説明する
  - 9) JOCVは赴任6ヶ月位は自分の幼稚園を中心に活動して、手を広げないこと

	<p>10) 教師がJOCVの指示に従わない場合、3ヶ月の猶予を与え、その後対処を考える</p> <p>— 指導書について —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導書の説明会/研修会の期日の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>10月27日 説明会/研修会の為の最終会議 (FELDA側より2名参加)</li> <li>10月28~30日 説明会/研修会準備会議</li> <li>11月1日~13日 説明会/研修会</li> </ul> </li> <li>・ 学期毎に指導書に関する会議を持つ</li> <li>・ 指導書を各入植地に一部ずつの提案の可否</li> <li>・ 指導書の形式をファイル形式にすることの再確認</li> </ul>
<p>1982.11.17 FELDA本部会議室</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新しいJOCV (幼稚園教諭) のまとめ役、連絡係の紹介</li> <li>2) JOCVによって作られた幼稚園参考資料集の1983年度の使用方法的再確認</li> <li>3) 1983年に行われる、資料集についての検討会の開き方と参加者について再検討</li> <li>4) 1982年11月1日~13日に行われた説明会/研修会の反省</li> </ol>
<p>1983.2.28 FELDA本部会議室</p>	<p>— FELDA側より —</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本部のJOCV担当がハプサ女史よりザバ氏に代わる</li> <li>2) デモンストレーション用予算M\$200について</li> <li>3) 教師の給料について</li> <li>4) カウンターパートを日本に送ることについて</li> <li>5) チニ、スニン (入植地) のJOCVの任期延長について</li> <li>6) 活動報告レポートを本部あてに送ること</li> <li>7) 各入植地の問題について討議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水の問題、一クラスの園児数の多い所、カウンターパートとの連絡が難しい所</li> <li>・ 指導書はあくまでも補助的なものである</li> </ul> </li> <li>8) 指導書の評価表について</li> </ol>

<p>1983.06.22 FELDA本部会議室</p>	<p>- FELDA側より -</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今後のFELDAとJOCVの会議について</li> <li>2) 指導書について</li> <li>3) 一学期を終え指導書の現状について</li> <li>4) 各入植地における問題点</li> <li>5) FELDAの作る指導書について</li> <li>6) 良い条件の幼稚園に新隊員を派遣することについて</li> <li>7) 中央訓練所に隊員を送ることについて</li> </ol>
<p>1983.08.18 FELDA本部会議室</p>	<p>- FELDA側より -</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入植地長及びカウンターパートのJOCVに対する責任について</li> <li>2) 地方事務所におけるJOCVに対する責任について</li> <li>3) JOCVの活動のあり方について</li> <li>4) 一人一人のJOCVの抱える問題について</li> <li>5) 指導書実施（2学期）について経過報告 (現場教師からでてくるコメントをもとに改訂部分についての討議)</li> </ol>
<p>1983.11.15 - 16 中央訓練所</p>	<p>- FELDA側より -</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入植地及びカウンターパートのJOCVに対する責任について</li> <li>2) 地方事務所とJOCVのかかわりについて</li> <li>3) JOCVの活動のあり方について</li> <li>4) 幼稚園専門のASDOを地方事務所に置くことの提案について</li> <li>5) 教師に対するASDOの役割</li> <li>6) 指導書実施（3学期）についての報告と検討</li> <li>7) 来年度に向けての指導書の検討</li> </ol>

<p>1984.04.05 FELDA 本部会議室</p>	<p>- FELDA側より -</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 過去のJOCV受け入れ態勢の問題を解決する為のFELDAの方針</li> <li>2) 幼稚園に対するFELDA側の認識</li> <li>3) サバ、サラワク州への今後の方針 (幼稚園隊員の要請を含む)</li> <li>4) 会議を3ヶ月に一回開催する</li> <li>5) ASDOをJOCVのカウンターパートとする</li> <li>6) JOCVの受け入れ先の選び方について</li> <li>7) 報告書作成について</li> <li>8) ASDOとJOCVの研修を7月(5日間)開きたい</li> <li>9) 指導書2学期分の発送について</li> <li>10) JOCVの報告書を中央訓練所々に送付することについて</li> </ol>
<p>1984.05.07 - 08 特別会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文部省における就学前の活動の説明</li> <li>2) 音楽について</li> <li>3) 週案、日案についての説明、話し合い</li> <li>4) 指導書について説明</li> </ol>
<p>1984.11.15 - 16</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 月謝の値上がりに関して</li> <li>2) JOCVからの現状報告とFELDA側の解答 (勉強会の持ち方、研修後の教師の姿)</li> </ol>
<p>1985.03.05 FELDA中央訓練所</p>	<p>- FELDA側より -</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 会議のあり方について話し合う (入植地長出席の可否)</li> <li>2) バイクのガソリン代の請求方法について</li> <li>3) 予算について (会議出席等のクレームの仕方についての確認)</li> </ol>

- JOCV側より -

- 1) 2年間の活動期間中に、JOCVメンバーが中央訓練所を訪れている  
これは活動の一環であり、本部よりの出張旅費支給をお願いしたい
- 2) JOCV側としては、将来訓練講師となるASDOや教師がFELDA以外の機関（例えば農業大学）などで、研修を受けることを希望している  
その際、FELDA側は休暇扱いにするのではなく費用の面においても援助して欲しい
- 3) FELDAの新しい指導要領を作る際、JOCVと本部関係者とで深く討議したい  
又、この指導要領をどのような方法で作るのかFELDA側の解答をお願いしたい
- 4) 訓練講師の研修の為に、本部側がどのくらいの割当を用意しているのか意向を知りたい  
割当は少なすぎ時間もまた短いように思われる  
本部側が広い視野を持ち、訓練所で行われる研修の為により良い方法を見い出すことを望んでいる
- 5) JOCV側としては、幼稚園教諭が入植地に帰ってより良い教授法の向上をみることを願っている
- 6) JOCVは中央訓練所での位置付けを、単に補助的存在と考えているが、長官はJOCV側からFELDA側へ技術移転を望んでいる  
しかし、現在の中央訓練所の状況では技術移転は難しい  
理由の一つとして、現在に到るまで訓練所ではJOCVの正式なカウンターパートがない
- 7) FELDAのスタッフで日本の幼稚園の状況を知っている人がいない  
もし、日本の幼稚園の状況を知っている人がいたら、JOCVの活動はより効果的となり協力も得やすくなると思うが、それについてFELDA側の見解を知りたい
- 8) JOCVはFELDAの求める“良い幼稚園とは？”についての見解を求めたい

1985.07.17  
FELDA中央訓練所

- FELDA側より -

- 1) JOCVのカウンターパートのあり方について
- 2) 入植地サイドでは、会議が定期的に行われているのに、中央訓練所では会議は持たれないのだろうか
- 3) 各隊員の任地の状況報告及び問題提起

	<p>4) 公文書の書き方について</p> <p>— JOCV側より —</p> <p>1) 中央訓練所での研修生の中に、幼児教育に興味を持ってっている人がいる          そういう人達が中央訓練所以外の研修を受ける機会があればより良いと思う          例えば日本で研修を受ける等 FELDA側の援助をお願いしたい</p> <p>2) カリキュラム作成委員会は、本部側4名、JOCV、中央訓練所の講師から成る          ことを提案する          中央訓練所での幼児教育研修の内容をもう一度見直し、又JOCVがその研修で          手助けする時間を確認したい          JOCVは、この委員会の会議を、2ヶ月に1度おこないたい</p> <p>3) ASDOとJOCVとの研修会の開催について</p> <p>4) 新しく赴任した、JOCV幼稚園教諭隊員の中央訓練所視察訪問について</p>
<p>1985.09.18          FELDA中央訓練所</p>	<p>— FELDA側より —</p> <p>1) JOCVが提案する、日本への研修派遣について</p> <p>2) 指導要領作成の為に、JOCVが集まることについての許可</p> <p>3) 任地での技術指導（音楽・絵画製作・運動）の強化</p> <p>4) 新隊員の、任地赴任前ホームステイの企画</p> <p>— JOCV側より —</p> <p>1) 新人の自己紹介</p> <p>2) 研究発表“幼稚園教師の質向上の為に”</p> <p>3) ASDOの任地訪問について</p>
<p>1986.03.11          FELDA中央訓練所</p>	<p>— FELDA側より —</p> <p>1) 日本への研修生の派遣について</p> <p>2) 中央訓練所に入る後任について</p> <p>3) 断食期間中の研修の流れについて</p>



<p>1989.07.31 FELDA中央訓練所</p>	<p>— JOCV側より —</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 父兄に対し奉仕作業を求めているが、まったく協力が得られない どうすれば協力が得られるか？</li> <li>2) 新人隊員による中央訓練所視察訪問について</li> <li>3) 研究発表“技術移転が確実に行われる為のASDOの役割”</li> <li>4) 事前会議の必要性について</li> <li>5) カリキュラム制作会議について</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カウンターパートの異動がよくある為、技術移転が難しい</li> <li>2) 教育省の発行するカリキュラムや教材を、使用するよう各入植地に求めているが、入植地にはそれを購入する余裕がない</li> <li>3) 中央訓練所の研修に、幼稚園教諭を送る時の選び方について</li> <li>4) 研修の内容のあり方について</li> </ol>
----------------------------------	---

2. 隊員間の業務調整会議

日時・場所	討議内容
<p>1980.07.18 - 19 SEA HOTEL</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) FELDAの幼稚園の共通性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容 — 情操・社会・基本的生活習慣よりも知的発達を促すことに重点がおかれ、それが子供の発達段階、現状に適していない</li> <li>・ 教師の保育方法 — 準備不足を始めとし、保育活動の過程における導入・展開・まとめという流れがなく、子供の興味付けの働きがなされていない。</li> <li>・ 教材・教具 — 保育室内にある教材・教具が多すぎ、有効に利用されていない — 生懸命作るわりには使い方を知らないという現状である</li> <li>・ デイリープログラム — 小学校の様に一つ一つが途切れており、保育の流れがスムーズでなく関連性がない</li> <li>・ 家庭・地域の協力 — 基本的生活習慣が全くなっていないので協力を求めていきたい</li> </ul> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の子供に対する接し方 - 上から下へ教えこむ観が強く、子供の中に入って共に共鳴しあうようなことはない</li> <li>・ 音楽的要素 - 他の領域にくらべ、音楽に関する材料が不足している 教師の音楽性にもかなり問題がある</li> </ul> <p>2) 問題の対処の仕方 (FELDA側の要望として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央訓練所で行われている研修コースの内容を知る</li> <li>・ ドイツのボランティアと会って話し合いをする (この2点によって幼稚園の現状をより体系的に把握することが大切)</li> </ul> <p>3) カウンターパート</p> <p>直接の技術伝達対象者は、現場の教師以外になく、また技術を永久に残す為には、JOCVも中央訓練所に入る必要があると思うが、現在の能力では無理とも思ったりする</p>
<p>1981.04.09 SEA HOTEL</p> <p>1981.07.13 - 14</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各入植地における幼稚園の現状報告 (教育内容、教師の技術)</li> <li>2) カウンターパートについて (JOCVのカウンターパートはASDOが望ましい)</li> <li>3) JOCVの研修会について 情報交換、技術交流を深める為、2ヶ月に一度研修会を行う</li> <li>4) デモンストレーションについて JOCVの活動をアピールする為、子供達による発表会の開催</li> <li>5) 中央訓練所にJOCVが配属されることについて ドイツボランティアの引き上げにより、欠員が生じた為</li> <li>6) 見本園舎建設について</li> </ol> <p>ドイツボランティアとの話し合い</p> <p>目的： 過去10年間FELDAで活動していたドイツ協力隊の活動経緯、経験、その中での問題点について話を聞き、JOCVのFELDAでの今後の活動の参考にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドイツ協力隊幼稚園部門の沿革</li> <li>・ ドイツ協力隊がFELDAから退く理由</li> <li>・ FELDA幼稚園にあるコーナーに関して</li> <li>・ ドイツボランティア作成による、幼稚園教材ガイドブックに関して</li> <li>・ 中央訓練所での活動に関して</li> <li>・ ASDO対象の幼稚園教育コースに関して</li> <li>・ 教師の為の手引書に関して</li> </ul>

1981.10.23  
SEA HOTEL

- ・ FELDAの幼稚園教育に対する姿勢について
- ・ マレーシアの幼稚園連盟について
- ・ その他

— 現在のJOCV幼稚園隊員における問題点 —

- 1) 情操教育についてFELDA本部自身が正しい理解をしていない
- 2) 目に見えるプロジェクトの追求が大きい  
しかしその割には援助がなされていない
- 3) 幼稚園に適したカウンターパートが得られていない
- 4) 予算がない入植地ではどう活動すべきか
- 5) FELDA幼稚園の最低条件は？
  - ・ 水があること
  - ・ 園児が十分に遊べるだけの土地があること
  - ・ 園舎の設置（窓やドアの取っ手の高さが子供に適していること）
  - ・ 倉庫があること
- 6) デモンストレーションについて  
本来の幼児教育の意義からはずれていること、入植地の子供達にかかる負担  
があまりにも大きいという結論に達し中止する

1982.01.29 - 30  
SEA HOTEL

- 1) FELDAへの意見文書の再討議（意見文書に盛り込む幼稚園最低条件）
  - ① 子供が安全に園生活できる為の環境
    - a. 子供の健康及び衛生を守る為に幼稚園には必ず水があること
    - b. 基本的な生活習慣に重要であるトイレが必ずあること
    - c. 子供に適した手洗い場が必ず設置されていること
    - d. 園舎の周囲には子供が運動場として使える、安全で平らな広い土地があること
    - e. 園庭には砂場、ブランコ、滑り台等の固定遊具があること
  - ② 設備について
    - a. くつ箱
    - b. 子供のバックをかけるフック
    - c. ハブラシ、タオルをかけるフック
    - d. 机と椅子
    - e. 救急箱
  - ③ 園舎について
    - a. 保育室内は雨が入らないよう園舎の軒を長くすること
    - b. 子供が遊べるようたたきを広くすること

	<ul style="list-style-type: none"> <li>c. 暑さ、雨音の騒音を防ぐ為天井をつけること</li> <li>d. 園舎の窓、ドアの取っ手の高さが子供に適した高さであり、開閉しても危険のないようにすること</li> <li>e. 園舎には必ず倉庫を作り、出入り出来るようドアをつける</li> <li>f. 園舎の中へ光が入るような窓ガラスが望ましい</li> <li>g. 台所はいつも清潔で子供に危険のないようにする</li> </ul> <p>④ 幼稚園予算について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. ASDO、SDAが幼稚園の予算を監督すること</li> <li>b. SDAと教師は、教材を購入する前に何が必要であるか検討すること</li> </ul> <p>⑤ 幼稚園教諭研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 幼稚園教諭になる以前に、その為のコースを必ず受けさせること</li> <li>b. SDAも就学前教育に関するコースを受けること</li> </ul> <p>⑥ JOCVは中央訓練所の指導者と会議、会合及び幼稚園教諭養成期間中の訓練所訪問又は、JOCVの活動している入植地への訓練所の訪問を通して交流を持ちたい</p> <p>⑦ 園舎を所有していない入植地に対して、園舎設立の為に必要な予算を援助するローンのシステムを開いて欲しい</p>
<p>1982.05.05 - 07 JICA 事務所</p>	<p>1) JOCV幼稚園教諭隊員の今までの経過</p> <p>2) FELDAの機構について</p>
<p>1982.08.16 JICA 事務所</p>	<p>1) FELDAに提出した要求（意見）書の読解と話し合い</p> <p>2) 指導書作りの中間報告と今後の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動機：現在あるものが良いとはいえず、全幼稚園へ広げる為にも指導書作りが必要である 又、後輩JOCVに対してもこの指導書をたたき台にして活動を広げることが可能になる</li> <li>・ 希望：ドイツボランティアの二の舞をさける為、後続隊員が現場まで浸透させて欲しい</li> <li>・ 具体的活用の仕方：全ての幼稚園に配布する。FELDA側の協力により、13園とJOCVの任地で試験的に実施してみる（結果報告として学期毎に一度会議を持つ） 11月に指導書の説明会として、13園のASDOと教師一名を呼び、中央訓練所で一週間研修会を行う</li> </ul> <p>3) マレー語保育専門用語集作成について</p>

<p>1982.09.22 - 29 SEA HOTEL</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育専門用語集作成について</li> <li>2) 幼稚園教育参考資料集の検討にあたって</li> <li>3) 年間指導計画についての検討</li> <li>4) 説明会（研修会） 11月1日～11月13日 中央訓練所で行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容 ・ 「幼稚園教育参考資料」についてのオリエンテーション</li> <li>・ 年間指導計画</li> <li>・ 月間領域別指導計画</li> <li>・ 週単元に基づいた保育活動集</li> <li>・ 具体的研修内容について</li> <li>・ 各分担部分に必要な準備物の確認</li> <li>・ 資料集の今後の使用方針・運用方法について</li> <li>・ 今後予測される問題点</li> <li>・ 問題点をふまえた上での活動</li> <li>・ 新隊員への引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> <li>－ これからの活動のあり方（資料集の改訂版作成）</li> <li>－ 活動をスムーズに運営していく為に</li> </ul> </li> <li>・ 研修後の試験・評価について</li> </ul> </li> </ol>
<p>1982.10.27 中央訓練所 研修会事前打ち合せ会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 資料集について</li> <li>2) プログラムについて</li> <li>3) 研修会初日の進め方について</li> <li>4) 物品準備について</li> <li>5) 交通費、材料費請求について</li> <li>6) 各講義の分担について</li> <li>7) 教材の準備状況について</li> <li>8) 反省会について</li> </ol>
<p>1982.10.28 - 31 中央訓練所 研修会事前準備 打ち合せ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 資料についての説明</li> <li>2) プログラム</li> </ol>

1983.01.27 JICA 事務所	<p>3) 研修会初日にあたって何をすべきか</p> <p>4) 物品購入について</p> <p>5) 教材の仕上り具合</p> <p>6) 研修会後の反省会について</p> <p>1) 新任隊員・派遣中隊員自己紹介</p> <p>2) 新任隊員に対するオリエンテーション</p> <p>3) 保育カリキュラム</p> <p>4) 保育資料に従って行った1ヶ月の保育をふりかえって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の保育に対する姿勢の変化・子供の変化等、目立った効果が早くも現れている</li> <li>・ 反面、教師の負担増、カリキュラムに従うことによってお金がかかる問題点もでてきている</li> </ul>
1983.08.16 - 17 グラントセントラルホテル	<p>1) 指導書の検討会 (実際に説明会/研修会で行われたカリキュラムに添って保育をした報告と反省)</p>
1983.11.14 中央訓練所	<p>1) 指導書の検討会</p> <p>2) 中央訓練所からの報告 (メロディオン指導、宮城隊員の後任について)</p>
1983.12.13	<p>1) 指導書の質疑応答</p> <p>2) 中央訓練所からの研修報告</p> <p>3) 中央訓練所の今後のあり方について</p>
1984.04.05 JICA 事務所	<p>1) FELDA本部との会議の内容について</p> <p>2) JOCVが入植地で活動する方向づけ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 教師の作成する週案、日案について</li> <li>4) 指導書について</li> <li>5) 中央訓練所について</li> </ul>
<p>1984.05.08 中央訓練所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) FELDAとJOCV会議の日本語要約</li> <li>2) 日案の作り方</li> <li>3) 保育活動について</li> <li>4) JOCV幼稚園教諭隊員のあり方について</li> </ul>
<p>1984.08.02 - 04 中央訓練所 FELDAとJOCV会議 の事前会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 中央訓練所6ヶ月研修の報告</li> <li>2) 副島ハマ先生を迎えるにあたって</li> <li>3) 隊員各自の問題点</li> <li>4) 中央訓練所講師より訓練所での研修のあり方のコメント</li> <li>5) これからのJOCVの活動の目標</li> </ul>
<p>1984.09.03 - 04</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 研修会で指導する際の留意点</li> <li>2) 来年度の6ヶ月コースに短期JOCVも加わることについて</li> <li>3) 中央訓練所の研修の全体的流れについて</li> </ul>
<p>1984.11.04 FELDAとJOCV会議 の事前会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 活動上の問題点</li> <li>2) 中央訓練所からの報告</li> </ul>
<p>1984.12.12 職種別ミーティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 研修会の反省、会計報告</li> <li>2) 来年度に向けての準備</li> </ul>

	<p>3) 勉強会のあり方について</p> <p>4) 中央訓練所からの報告</p> <p>5) 運動会の準備について</p> <p>6) 副島ハマ先生を迎える準備について</p> <p>7) FELDAとJOCV会議に提出する提案書作成について</p>
<p>1985.07.01 - 03 SEA HOTEL 会議室</p>	<p>1) カリキュラム委員会より経過報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育省のものは骨組みしかなく、現場の先生方が理解できない</li> <li>・ JOCVが作成した指針、FELDA側の指針との食い違いが目立ってきた</li> <li>・ カリキュラム作成の問題点 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ FELDA側に幼児教育に精通している人が少ない</li> <li>－ カリキュラム作成の為、中央訓練所での研修がおろそかになっている</li> </ul> </li> <li>・ JOCVのカリキュラム作成へのたずさわり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 良いカリキュラム作成をめざし、総合的にかかわる</li> </ul> </li> <li>・ JOCV幼稚園教諭隊員の方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ スタッフの養成（日本に送る）</li> <li>－ 中央訓練所でのJOCVの活動の充実</li> <li>－ 任地の地方単位の研修の充実、アフターケア</li> </ul> </li> </ul> <p>2) 教育省発行の「就学前指導要領」の読み合わせ</p> <p>3) 入植地の実情との比較</p>
<p>1985.07.16 FELDA中央訓練所 FELDAとJOCV会議 の事前会議</p>	<p>1) 幼稚園教諭の日本への技術研修について</p> <p>2) 新隊員からの問題点 生活環境、仕事場の人的環境等</p> <p>3) カリキュラム委員会より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JOCVとFELDA側の、カリキュラムに対する意識の違いが大きく、折り合う点が見いだせないという状況である</li> </ul>
<p>1985.09.16 ~ 17 FELDA中央訓練所</p>	<p>1) リーダーの件について</p> <p>2) 12月の勉強会について</p>



<p>1985.12.16 ~ 17 SEA HOTEL 会議室 職種別ミーティング</p>	<p>3) 研修関係スタッフによる「研修に関する会議」の報告</p> <p>4) カリキュラム委員会からの報告</p> <p>1) 大型紙芝居の製作</p> <p>2) 絵本のマレイ語訳</p> <p>3) 紙芝居台本作り</p> <p>4) ペープサート製作</p> <p>5) Aktiviti集作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽 - カセット2本、歌集1冊を作りたい</li> <li>・ 各分野ごとに研究を重ね、製作にそなえる</li> </ul> <p>6) 研修員について</p> <p>7) 絵本について</p>
<p>1986.03.10 ~ 11 FELDA中央訓練所</p>	<p>1) 研修生派遣内容についての話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県 - 受け入れの可能性有り</li> <li>・ 適確な人選を行う必要有り (宗教、生活、考え方、語学)</li> </ul> <p>2) 中央訓練所の後任隊員について</p> <p>3) 幼稚園隊員の必要性について</p> <p>4) 後任のリーダーについて</p>
<p>1988.12.05-07 PLAZA HOTEL 会議室</p>	<p>1) 幼稚園教諭隊員の、共通する問題点についての話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教諭の技術の差が大きい</li> <li>・ 入植地間の交流が少ない</li> <li>・ 住民の幼稚園に対する理解が低い又園側からのアプローチが少ない</li> <li>・ ASDO, SSD, SDAの幼稚園教育に関する正しい理解がなされていない</li> </ul> <p>2) 問題点をふまえたうえでの活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ASDO, SSD, SDAの研修を設ける</li> <li>・ 各任地において状況に応じた活動を行う</li> </ul>

1989.04.10 ~ 11 JICA 事務所	<p>3) FELDAの4機関での問題点と対策について</p> <p>1) 各任地における、プロジェクト実施結果報告とそれについての意見交換</p> <p>2) 各任地における、勉強会のあり方、内容について</p> <p>3) 日本への研修生候補者についての話合い</p>
1989.11.21 ~ 23 JICA 事務所	<p>1) 活動状況報告と問題点についての話合い</p> <p>2) シニア隊員要請の主旨及び活動の方向性</p> <p>3) 指導要領についての話合い</p> <p>4) 日本研修員推薦制度についての話合い</p>
1990.03.05 JICA 事務所	<p>1) 幼稚園教諭隊員全体としての活動内容、方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師採用時のチェック方法を改善</li> <li>・ 教師の評価表作成</li> <li>・ ビデオ作り (良い教え方の見本)</li> <li>・ 日案の簡素化</li> <li>・ 公開保育の実施</li> <li>・ 地方事務所レベルの勉強会の充実</li> <li>・ JOCVの活動範囲を地方事務所単位にする</li> <li>・ シンポジウム (後にセミナーに切り替える) を開く</li> <li>・ 固定遊具の資料作り</li> </ul>
1990.04.16 JICA 事務所	<p>1) 教師評価表の作成</p> <p>2) セミナーのあり方、方向性について</p>
1990.05.24 ~ 25 JICA 事務所	<p>1) 調査表の作成 (JOCV活動の効果を知る為、施設、遊具、生活習慣を中心にアンケート用紙を作る)</p> <p>2) セミナー開催についての話合い</p> <p>3) 教師評価表の検討</p> <p>4) 発達記録表の検討</p>

<p>1990.07.05 ~ 06 JICA 事務所</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 隊員活動報告</li> <li>2) FELDAとの話し合い議題について</li> <li>3) 教師の評価表について</li> <li>4) 指導要領について</li> <li>5) セミナー“幼児教育の日”について</li> <li>6) 日案について</li> </ol>
<p>1990.09.10 JICA 事務所</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) セミナーの為の準備</li> </ol>
<p>1990.10.30 FELDA 本部</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) セミナー開催後の報告</li> <li>2) JOCV幼稚園隊員の最終一年の活動について</li> </ol>
<p>1990.12.19</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国担当と報告書作成の打ち合せ</li> </ol>
<p>1991.01~</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 具体的内容について話し合いを開始する</li> </ol>